

令和元年度
県民アンケート調査
報告書

<概要版>

令和元年12月

奈良県

目次

| | |
|-----------------------------|----------|
| 第1章 調査の実施概要 | 1 |
| 1. 調査の目的 | 1 |
| 2. 調査項目 | 1 |
| 3. 調査の設計 | 1 |
| 4. 調査票の配布・回収の状況 | 1 |
| 第2章 調査結果の分析 | 3 |
| 1. 県民の生活全般について | 3 |
| 1-1 現在の暮らし向きの実感 | 3 |
| 1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感 | 4 |
| 1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由 | 5 |
| 1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無 | 7 |
| 1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容 | 8 |
| 1-6 奈良県の住みやすさの評価 | 9 |
| 1-7 将来の奈良県での定住意向 | 10 |
| 1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由 | 11 |
| 2. 県民の生活に関する重要度・満足度について | 13 |
| 3~12. 県民の生活に関する意識やニーズについて | 21 |
| 3. 奈良県への愛着について | 21 |
| 4. 文化振興について | 22 |
| 5. スポーツ振興について | 24 |
| 6. 食品ロス削減について | 26 |
| 7. 安全・安心の確保について | 28 |
| 8. 雇用対策について | 32 |
| 9. 少子化対策について | 34 |
| 10. 女性の活躍推進について | 35 |
| 11. 景観・環境の保全について | 37 |
| 12. エネルギー政策の推進について | 39 |
| 13. 回答者に関すること | 41 |

第1章 調査の実施概要

1. 調査の目的

身近な生活に関する事柄についての重要度・満足度のほか、「雇用」や「環境」等に関する意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

2. 調査項目

県民の生活全般に関する項目、県民にとって身近な生活に関する項目についての重要度と満足度を5段階で問う項目、「雇用」や「環境」等に関する意識やニーズ及び回答者の属性を問うフェイスシートから構成されています。

3. 調査の設計

| | | | |
|--------|-----------|--------|----------------------|
| ◇調査地域 | 奈良県全域 | ◇調査対象 | 県内在住の満20歳以上の男女・個人 |
| ◇調査標本数 | 5,000人 | ◇調査抽出法 | 層化二段無作為抽出法 |
| ◇調査方法 | 郵送配布・郵送回収 | ◇調査時期 | 令和元年7月6日(土)～7月31日(水) |

4. 調査票の配布・回収の状況

| | | | |
|-------|--------|-----------|---------------|
| ◇配布件数 | 5,000件 | ◇有効回答数(率) | 2,284件(45.7%) |
|-------|--------|-----------|---------------|

■ライフステージの区分と区分の設定条件及び有効回答数

| 区分 | 区分の設定条件 | 有効回答数 | 構成比 |
|----------|-------------------------------------|-------|--------|
| 若者 | 20～29歳で、夫婦のみの世帯以外の世帯の回答者 | 111 | 4.9% |
| 夫婦 | 20～64歳で、夫婦のみの世帯の回答者 | 224 | 9.8% |
| 育児期 | 小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者 | 179 | 7.8% |
| 教育期前期 | 小・中学生、高校生、高専生の子どもがいる世帯の回答者 | 383 | 16.8% |
| 教育期後期 | 専門学校生・短大生・予備校生・大学生(院生)の子どもがいる世帯の回答者 | 180 | 7.9% |
| 単身高齢者 | 65歳以上の単身世帯の回答者 | 122 | 5.3% |
| 高齢者夫婦 | 65歳以上の夫婦のみの世帯の回答者 | 401 | 17.6% |
| 非該当又は無回答 | | 874 | 38.3% |
| 合計※注 | | 2,474 | - |
| 有効回答数 | | 2,284 | 100.0% |

(注) ライフステージ区分は、「年齢」、「世帯構成」、「子どもの成長段階」の複数の要素を組み合わせて設定している。2人以上の子どもがいる場合、複数の区分に該当するため、合計は有効回答数(2,284件)と一致しない。

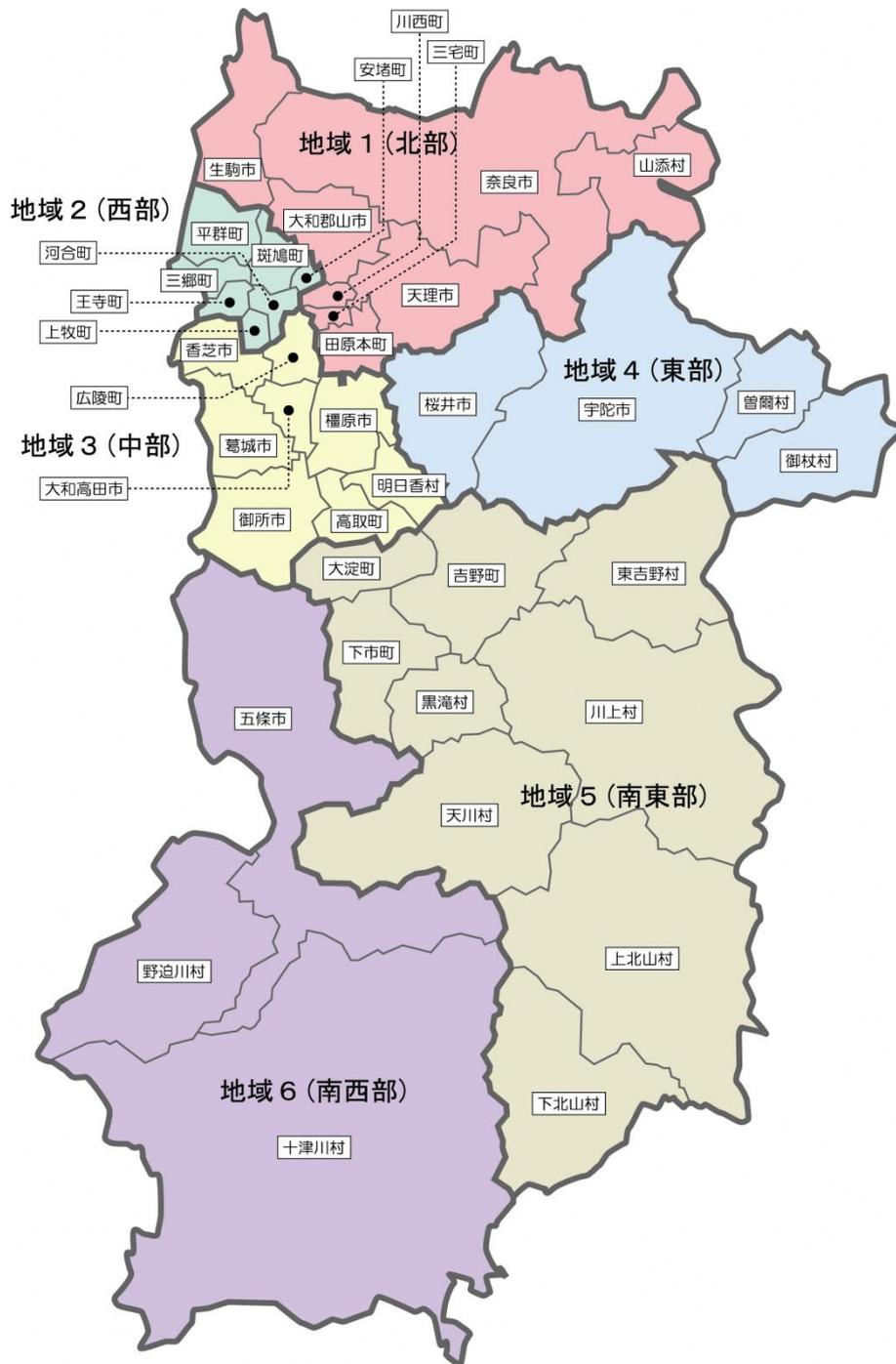
■旧住民・新住民の区分と区分の設定条件及び有効回答数

| 区分 | 区分の設定条件 | 有効回答数 | 構成比 |
|--------------------|-----------------------------|-------|--------|
| 旧住民(奈良県にずっと住んでいる人) | 生まれたときから奈良県に住んでいる回答者 | 1,325 | 58.0% |
| 新住民(奈良県に新しくきた人) | 生まれたときは奈良県に住んでおらず、移住してきた回答者 | 944 | 41.3% |
| 無回答 | | 15 | 0.7% |
| 合計 | | 2,284 | 100.0% |

■奈良での就労区分と区分の設定条件及び有効回答数

| 区分 | 区分の設定条件 | 有効回答数 | 構成比 |
|-------------|---------------|-------|--------|
| 奈良県内で働いている人 | 就労場所が奈良県内の回答者 | 1,032 | 45.2% |
| 奈良県外で働いている人 | 就労場所が奈良県外の回答者 | 342 | 15.0% |
| 非該当又は無回答 | | 910 | 39.8% |
| 合計 | | 2,284 | 100.0% |

地域の区分



| 区分名 | 該当市町村名 | 有効回答数 | 構成比 |
|----------|--|-------|--------|
| 地域1(北部) | 奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西市・三宅町・田原本町 | 1,083 | 47.4% |
| 地域2(西部) | 平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町 | 210 | 9.2% |
| 地域3(中部) | 大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町 | 566 | 24.8% |
| 地域4(東部) | 桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村 | 163 | 7.1% |
| 地域5(南東部) | 吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村 | 173 | 7.6% |
| 地域6(南西部) | 五條市・野迫川村・十津川村 | 89 | 3.9% |
| 合 計 | | 2,284 | 100.0% |

第2章 調査結果の分析

1. 県民の生活全般について

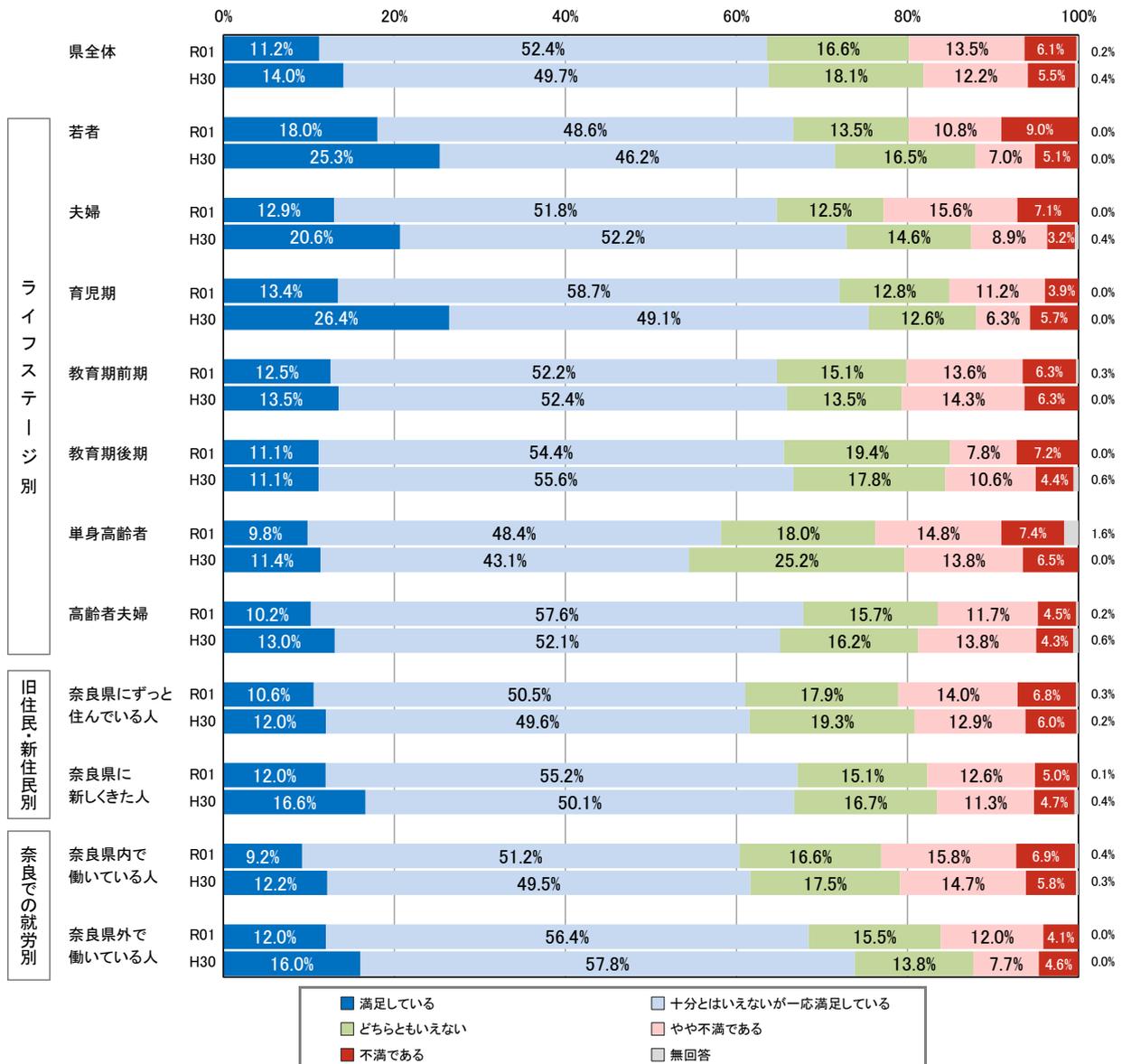
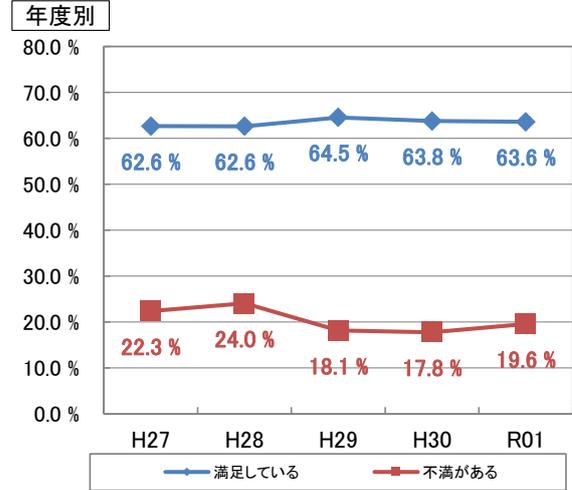
1-1 現在の暮らし向きの実感（問1）

■「満足」（「満足している」+「十分とはいえないが一応満足している」）している人は63.6%で、平成30年度と比較すると、0.2ポイント減少しています。「不満」（「やや不満である」+「不満である」）を抱えている人は19.6%で、平成30年度と比較すると、1.8ポイント増加しています。

■ライフステージ別に見ると、「満足」している人が最も多いのは『育児期』（72.1%）となっています。一方、「不満」を抱えている人が最も多いのは『夫婦』（22.8%）となっています。

■旧住民・新住民別に見ると、「満足」している人は、『奈良県に新しくきた人』（67.2%）が『奈良県にずっと住んでいる人』（61.1%）と比べ多くなっています。

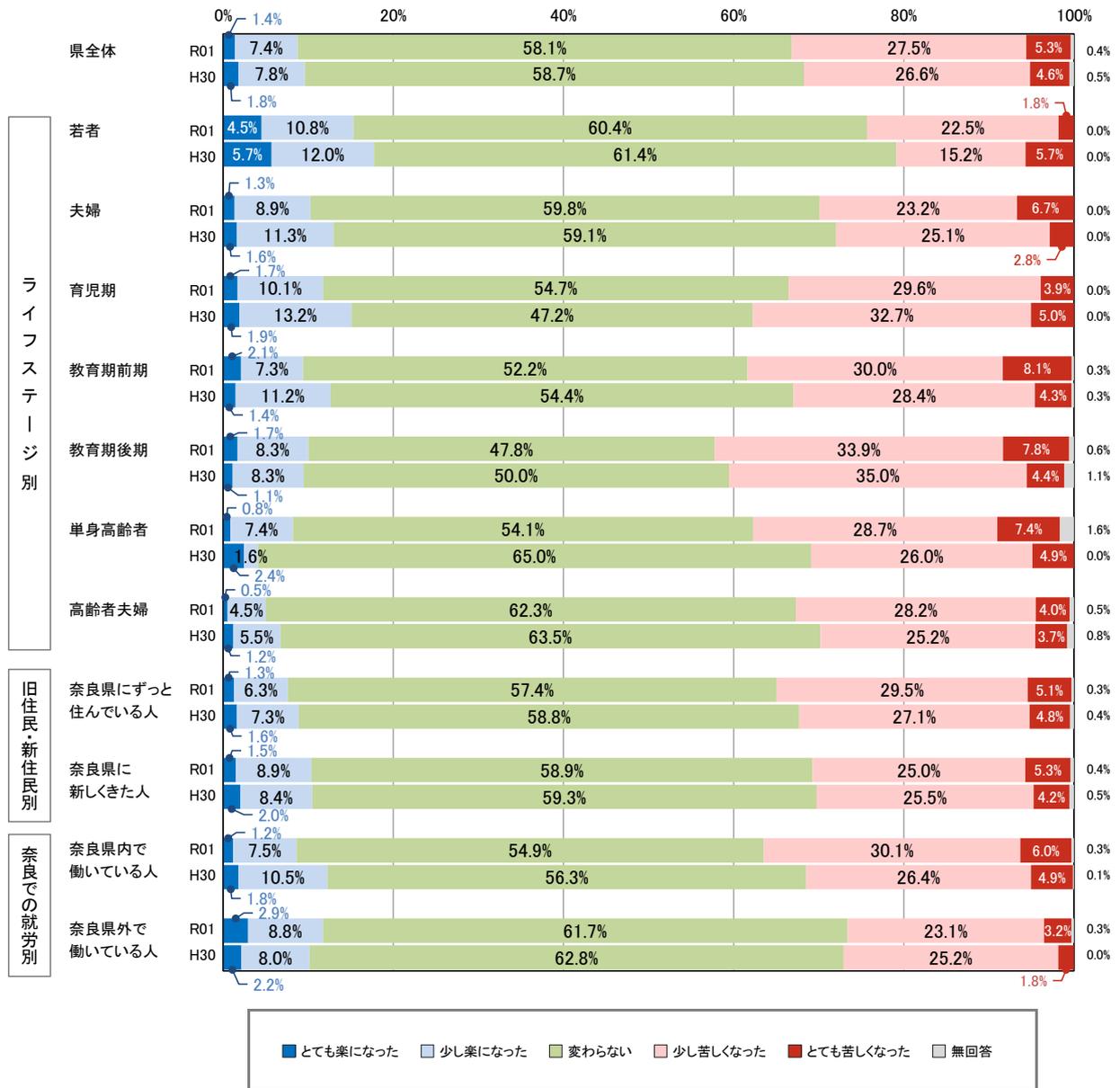
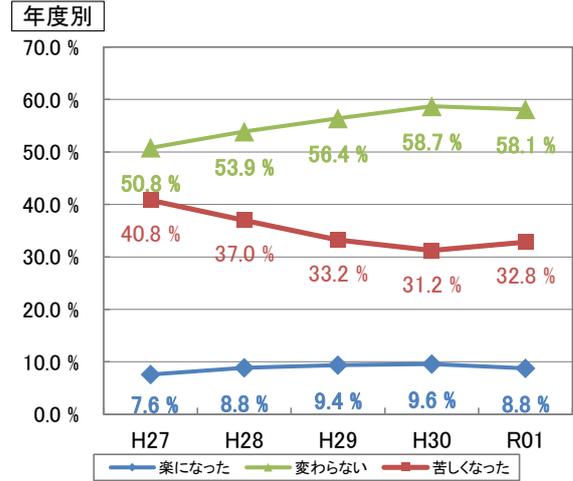
■奈良での就労別に見ると、「満足」している人は、『奈良県外で働いている人』（68.4%）が『奈良県内で働いている人』（60.4%）と比べ多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感（問2）

- 「変わらない」と感じている人は58.1%で、平成30年度から0.6ポイント減少、また、「楽になった」（「とても楽になった」+「少し楽になった」）と感じている人（8.8%）も、0.8ポイント減少しています。一方、「苦しくなった」（「少し苦しくなった」+「とても苦しくなった」）と感じている人（32.8%）は、平成28年度以降、減少傾向にありましたが、今回調査では平成30年度から1.6ポイント増加しています。
- ライフステージ別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『教育期後期』（41.7%）が最も多く、次いで『教育期前期』（38.1%）となっています。
- 旧住民・新住民別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』（34.6%）が『奈良県に新しくきた人』（30.3%）と比べ多くなっています。
- 奈良での就労別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県内で働いている人』（36.1%）が『奈良県外で働いている人』（26.3%）と比べ多くなっています。

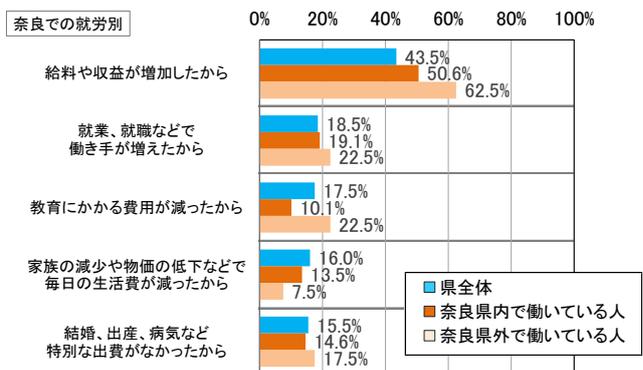
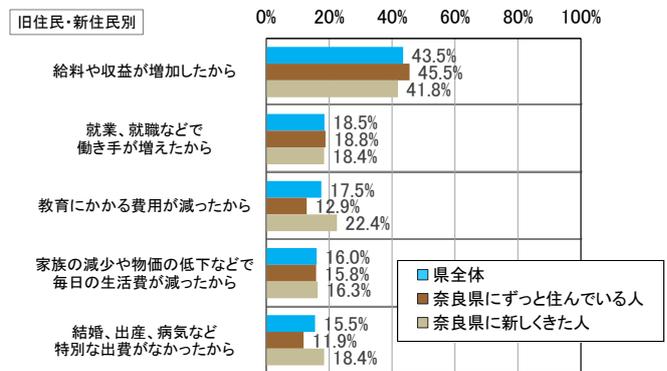
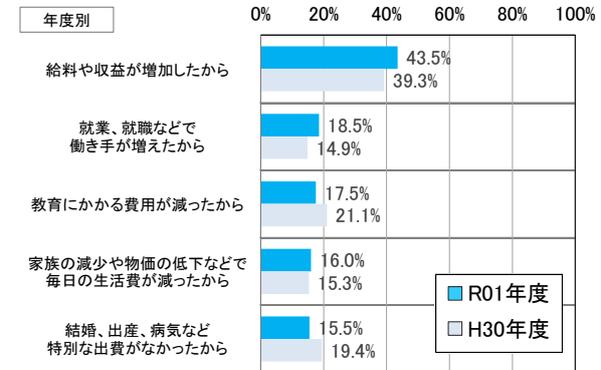
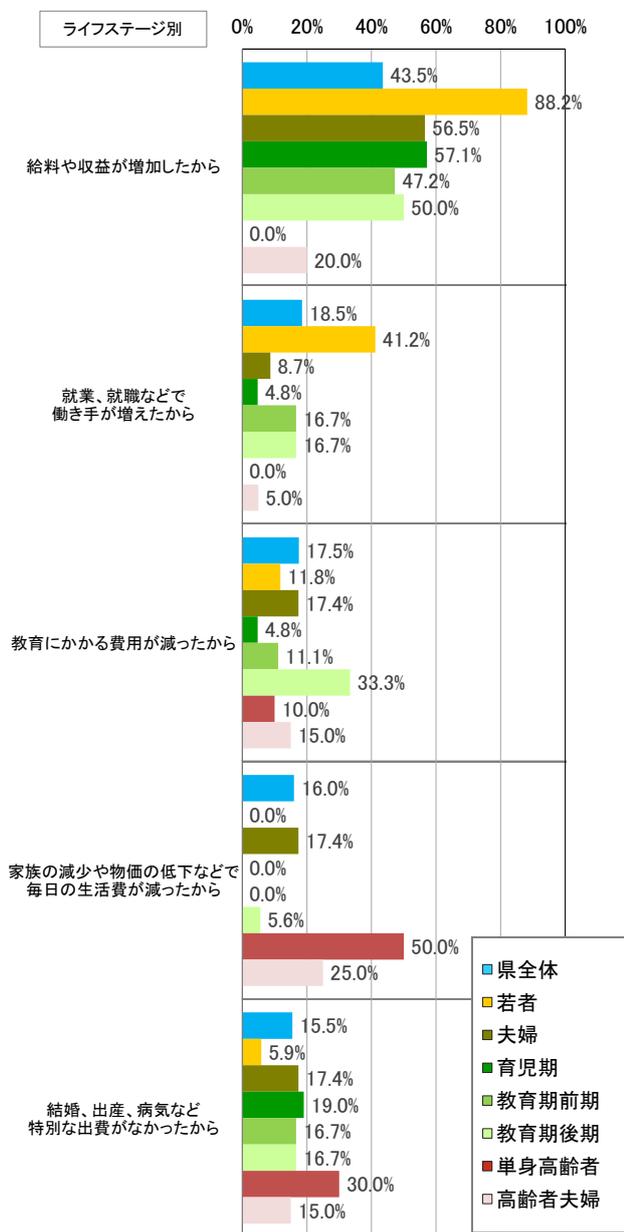


※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由

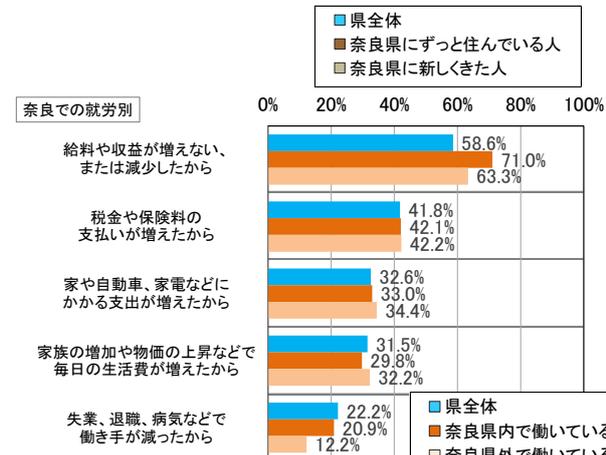
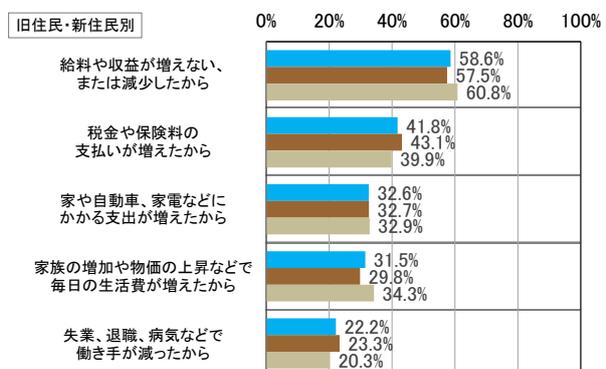
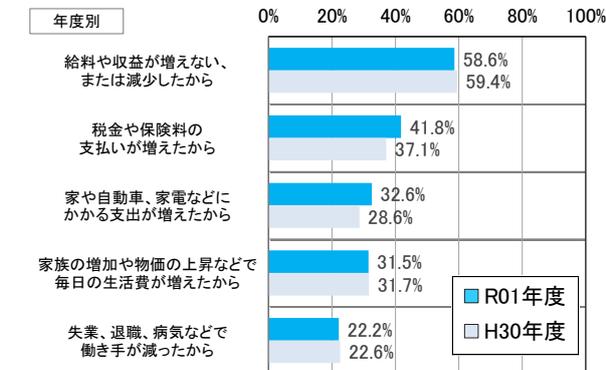
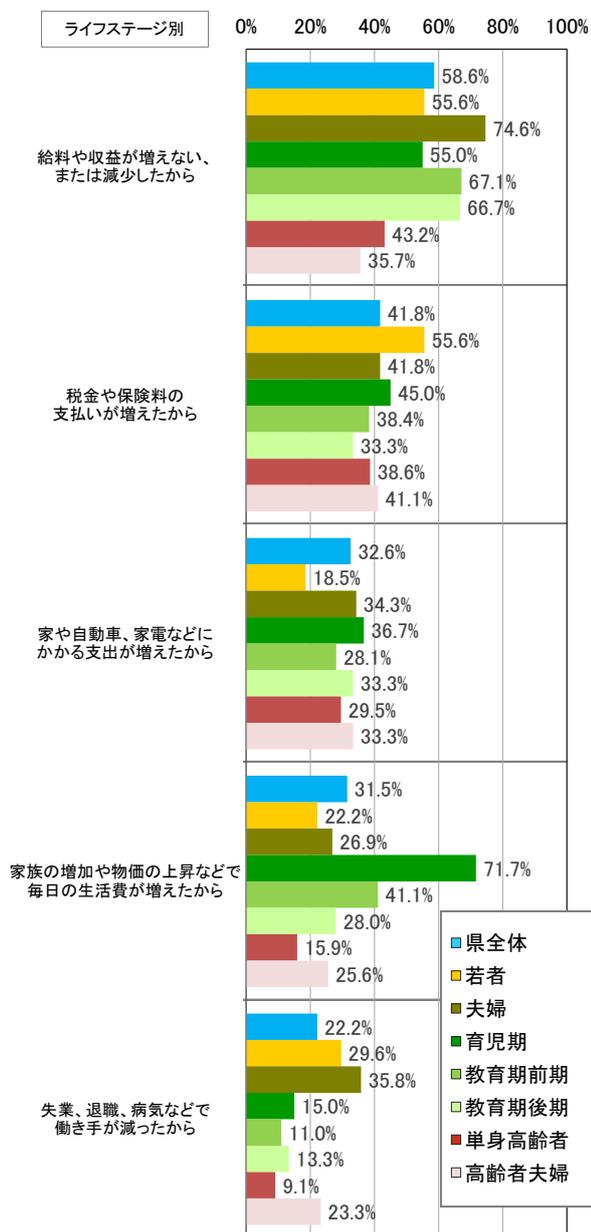
(1) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由（問3 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- 「1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増加したから」(43.5%)が最も多く、次いで「就業、就職などで働き手が増えたから」(18.5%)、「教育にかかる費用が減ったから」(17.5%)、「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」(16.0%)、「結婚、出産、病気など特別な出費がなかったから」(15.5%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増加したから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「就業、就職などで働き手が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「教育にかかる費用が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚、出産、病気など特別な出費がなかったから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



(2) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「少し苦しくなった」または「とても苦しくなった」と答えた理由 (問4 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「少し苦しくなった」または「とても苦しくなった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増えない、または減少したから」(58.6%)が最も多く、次いで「税金や保険料の支払いが増えたから」(41.8%)、「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」(32.6%)、「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」(31.5%)、「失業、退職、病気などで働き手が減ったから」(22.2%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増えない、または減少したから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「税金や保険料の支払いが増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多く、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』と『奈良県外で働いている人』が同程度となっています。
- 「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』と『奈良県に新しくきた人』が同程度、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「失業、退職、病気などで働き手が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



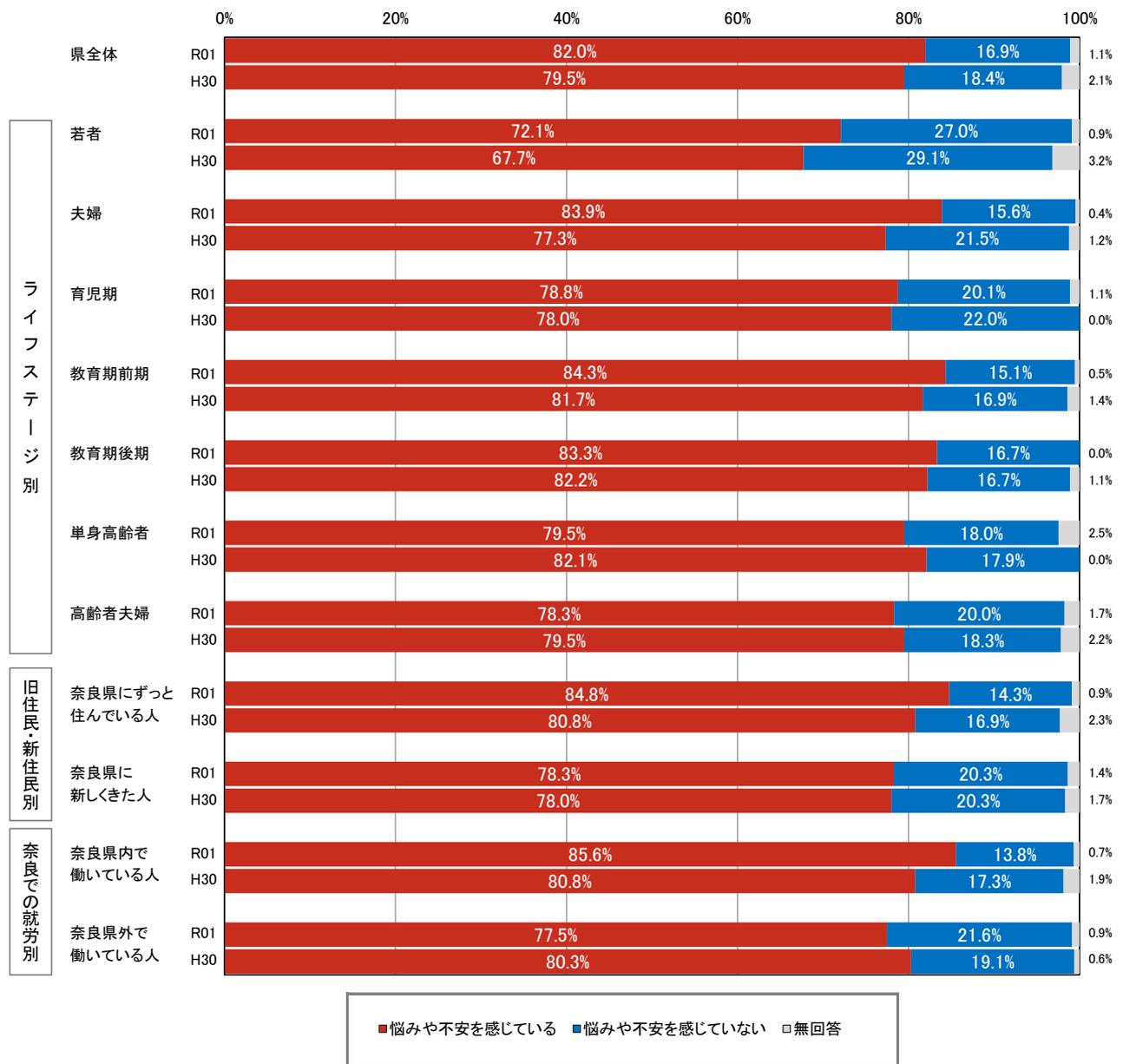
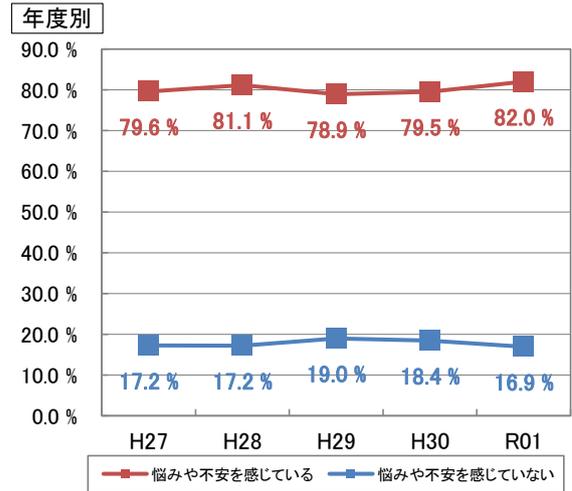
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無 (問5)

■平成 27 年度から継続して 75%以上の方が日頃の生活に対し「悩みや不安を感じている」と答えています。平成 30 年度と比較すると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は 2.5 ポイント増加して 82.0%となり、過去5年で最も多くなっています。一方、「悩みや不安を感じていない人」は 1.5 ポイント減少して 16.9%となっています。

■ライフステージ別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『教育期前期』(84.3%)、『夫婦』(83.9%)、『教育期後期』(83.3%)で8割以上となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(84.8%)が『奈良県に新しくきた人』(78.3%)と比べ多くなっています。

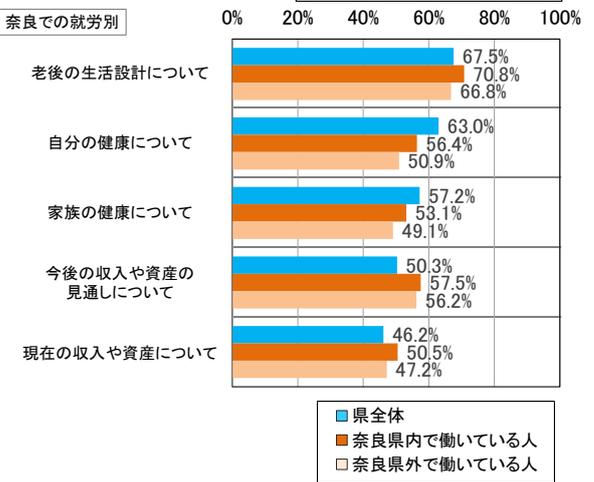
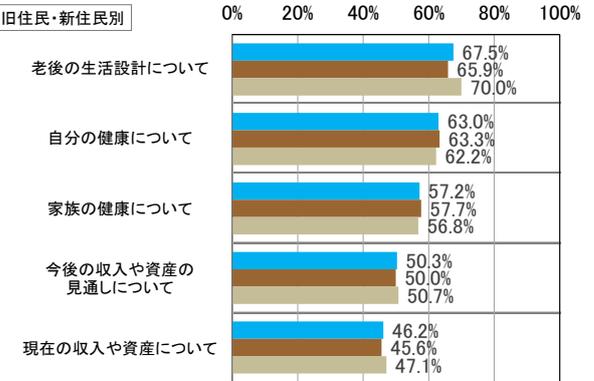
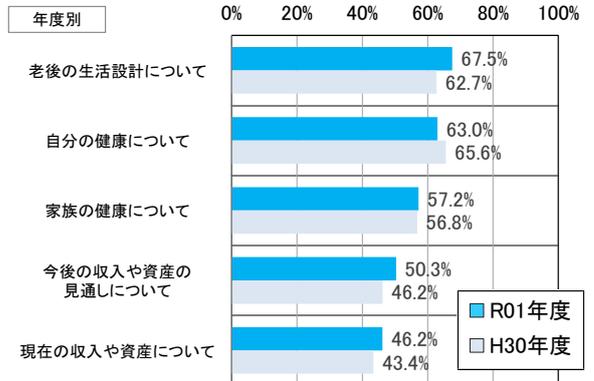
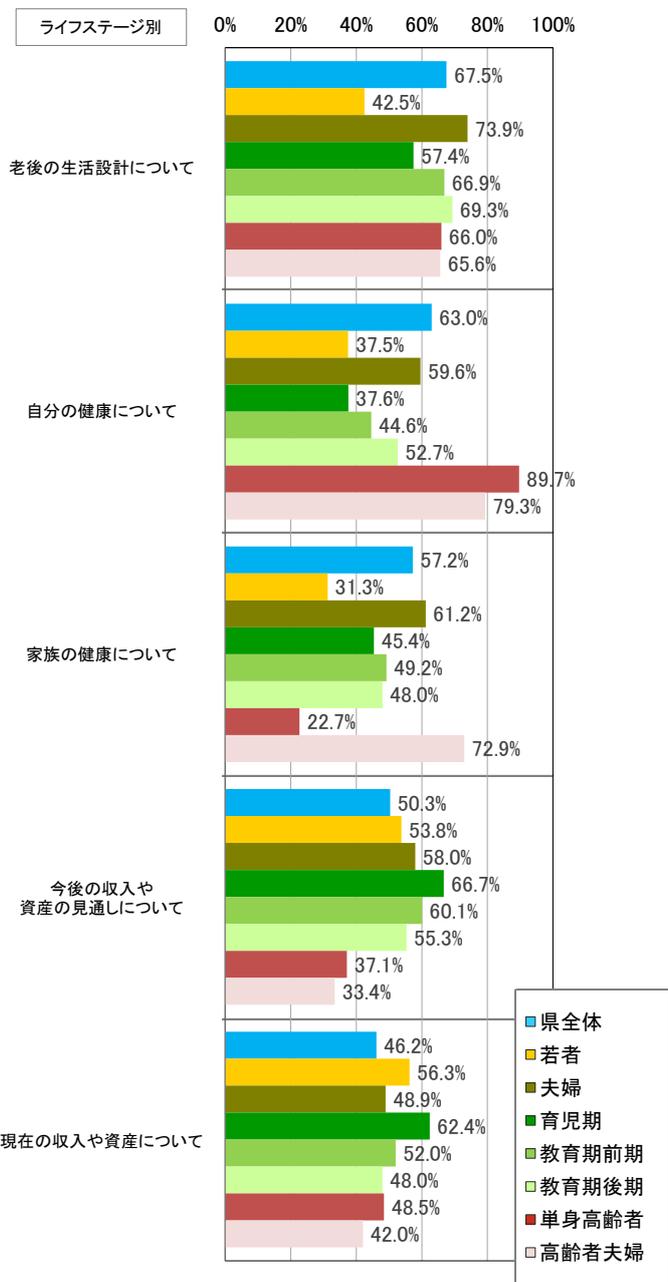
■奈良での就労別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県内で働いている人』(85.6%)が『奈良県外で働いている人』(77.5%)と比べ多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容（問6 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- 日頃の生活での悩みや不安の内容を尋ねたところ、「老後の生活設計について」(67.5%)が最も多く、次いで「自分の健康について」(63.0%)、「家族の健康について」(57.2%)、「今後の収入や資産の見通しについて」(50.3%)、「現在の収入や資産について」(46.2%)が多くなっています。
- 「老後の生活設計について」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「自分の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「今後の収入や資産の見通しについて」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「現在の収入や資産について」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



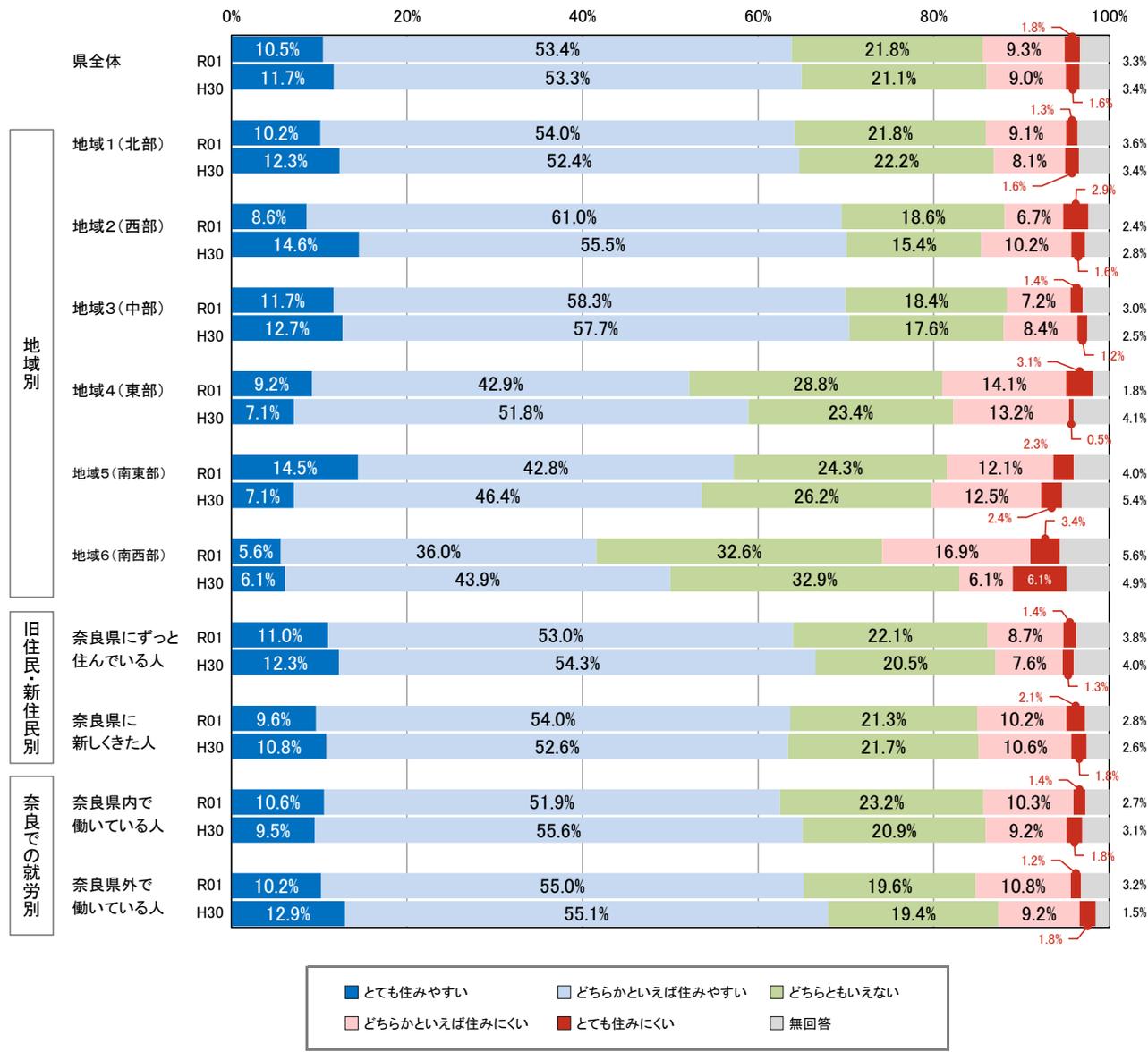
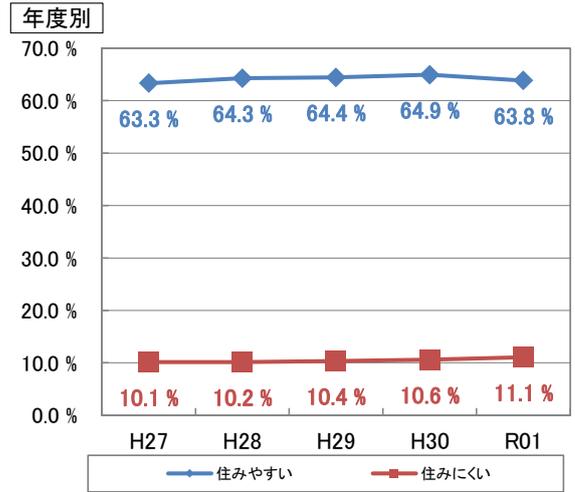
1-6 奈良県の住みやすさの評価 (問7)

■「住みやすい」「とても住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」と感じている人は、平成28年度から概ね横ばい傾向にありましたが、今回調査では平成30年度から1.1ポイント減少し、63.8%となっています。「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」+「とても住みにくい」と感じている人は、平成30年度から0.5ポイント増加し、11.1%となっています。

■地域別でみると、「住みやすい」と感じている人は、『地域3(中部)』(70.0%)が最も多く、次いで『地域2(西部)』(69.5%)、『地域1(北部)』(64.2%)となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(64.0%)と『奈良県に新しくきた人』(63.7%)が同程度となっています。

■奈良での就労別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県外で働いている人』(65.2%)が『奈良県内で働いている人』(62.5%)と比べ多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

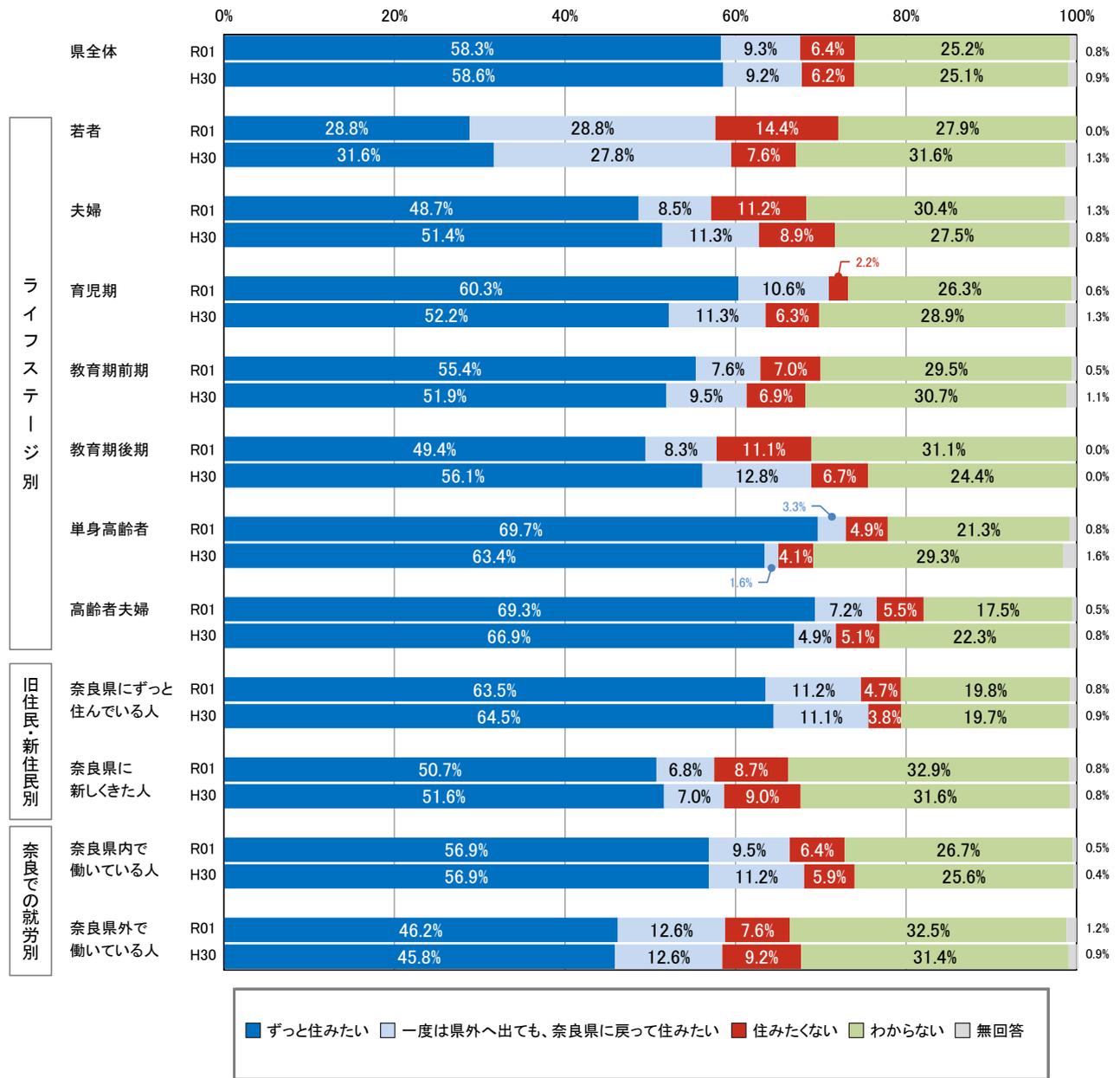
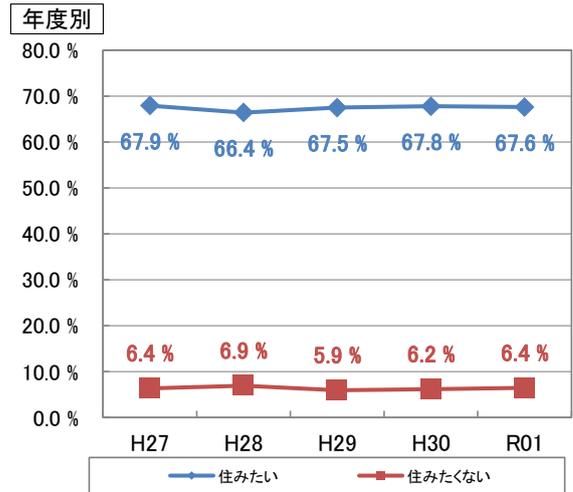
1-7 将来の奈良県での定住意向 (問8)

■奈良県に「住みたい」(「ずっと住みたい」+「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人は、平成 27 年度から6割台後半で推移しています。平成 30 年度と比較するとわずかながら減少(0.2ポイント減)し、67.6%となっています。

■ライフステージ別に見ると、奈良県に「ずっと住みたい」と考えている人が最も多いのは『高齢者夫婦』(76.6%)、最も少ないのは『夫婦』(57.1%)となっています。一方、「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人が最も多いのは『若者』(28.8%)となっています。

■旧住民・新住民別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(74.7%)が『奈良県に新しくきた人』(57.5%)と比べ多くなっています。

■奈良での就労別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県内で働いている人』(66.4%)が『奈良県外で働いている人』(58.8%)と比べ多くなっています。

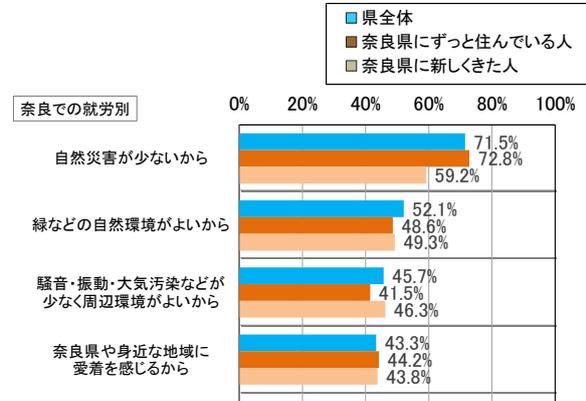
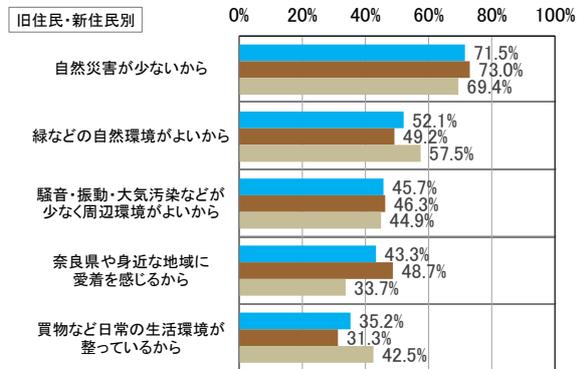
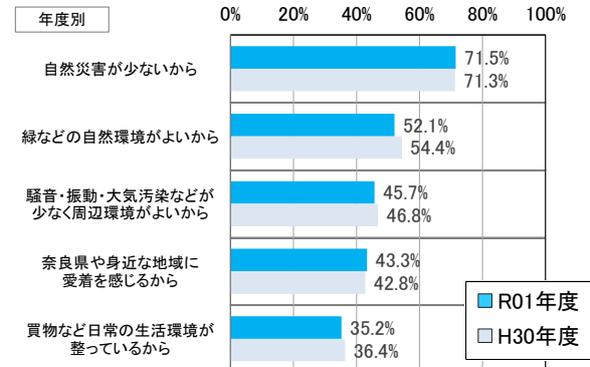
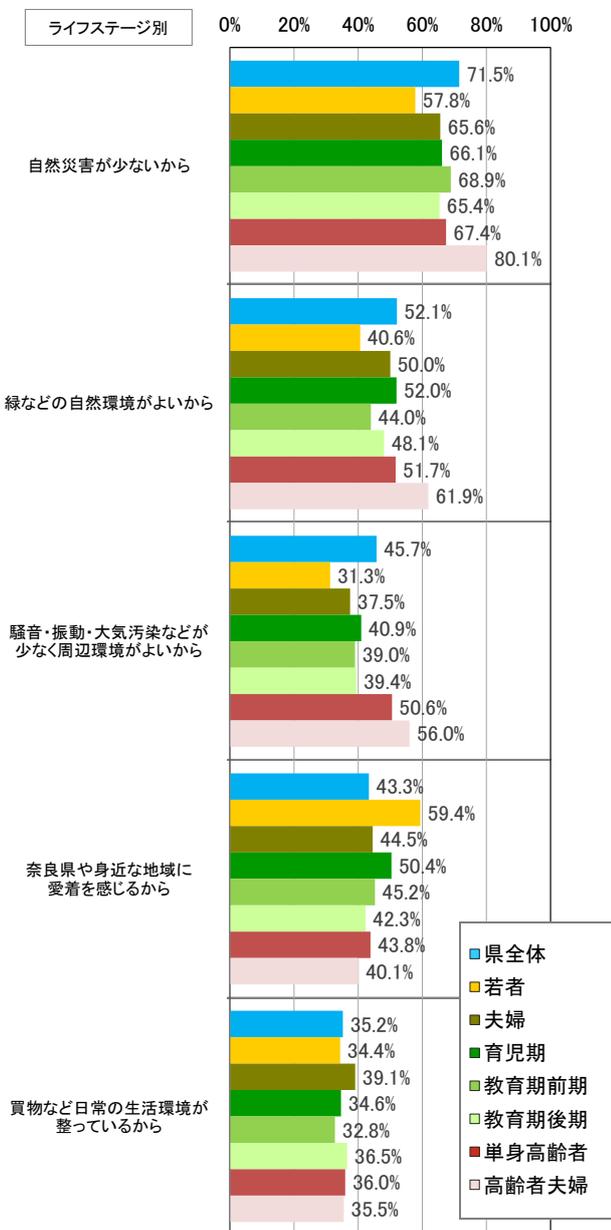


※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由

(1) 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由（問9 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

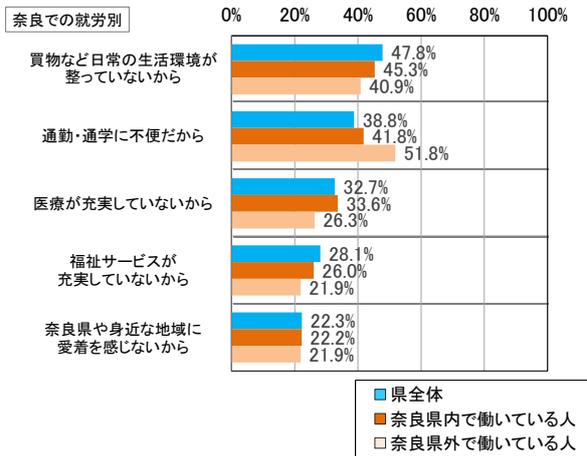
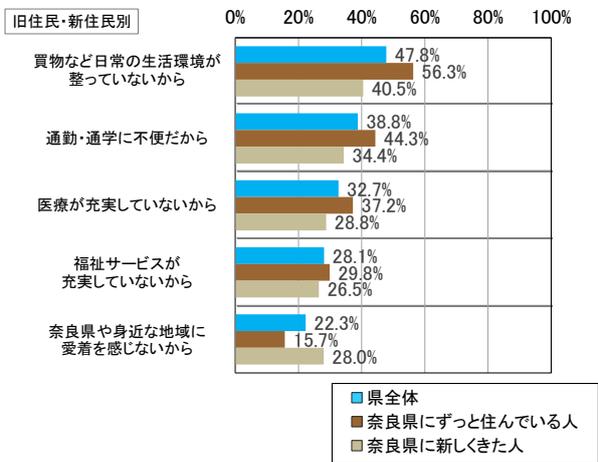
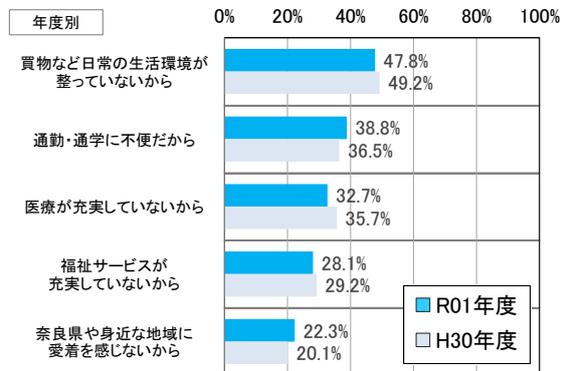
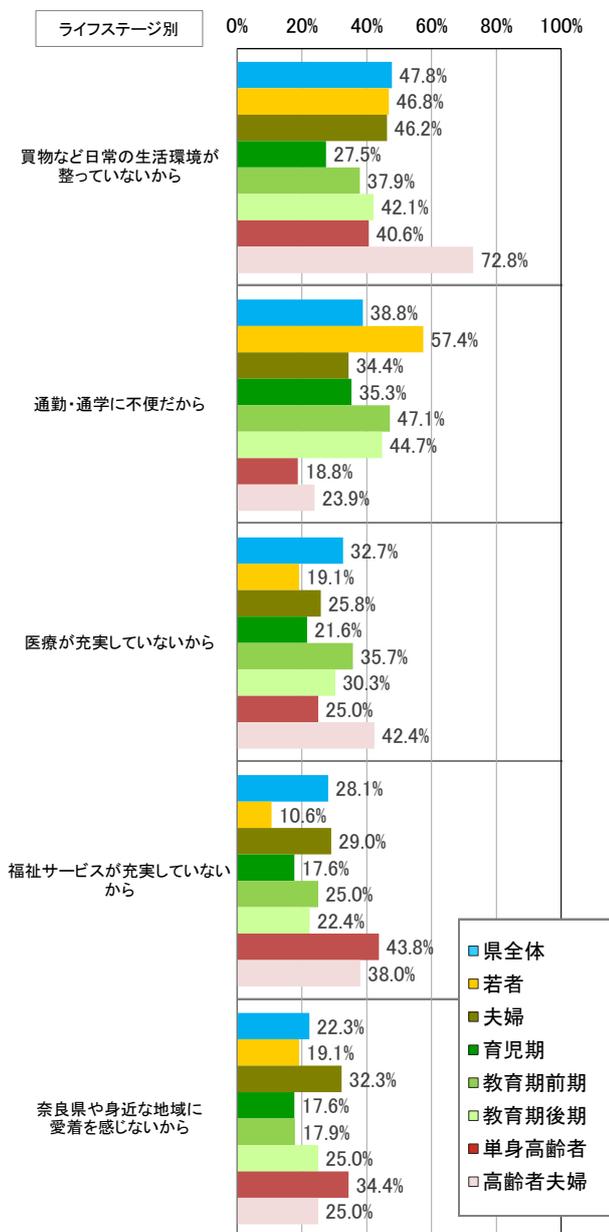
- 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由を尋ねたところ、「自然災害が少ないから」(71.5%)が最も多く、次いで「緑などの自然環境がよいから」(52.1%)、「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」(45.7%)、「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」(43.3%)、「買物など日常の生活環境が整っているから」(35.2%)が多くなっています。
- 「自然災害が少ないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「緑などの自然環境がよいから」、「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「買物など日常の生活環境が整っているから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



(2) 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由

(問 10 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

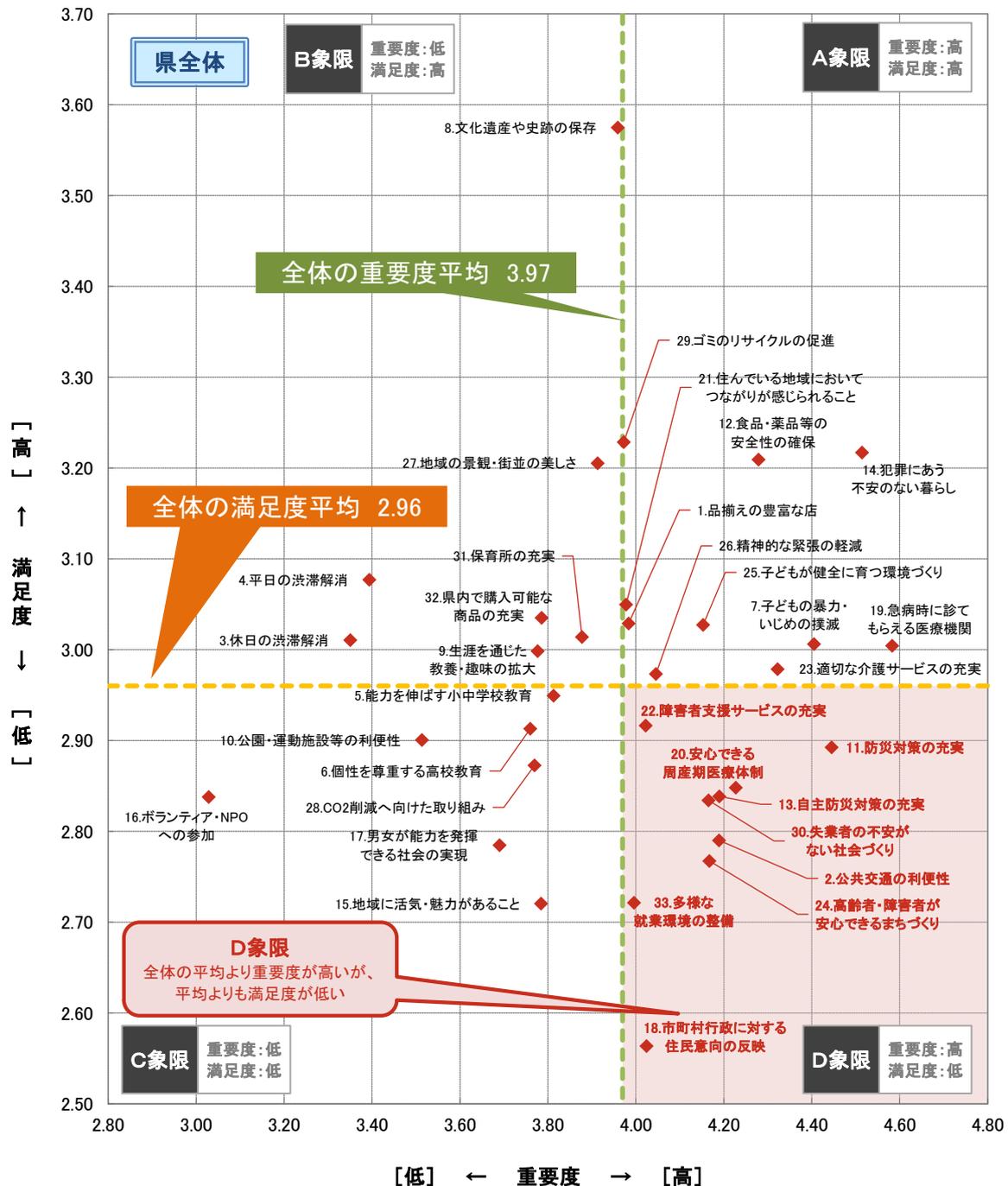
- 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由を尋ねたところ、「買物など日常の生活環境が整っていないから」(47.8%)が最も多く、次いで「通勤・通学に不便だから」(38.8%)、「医療が充実していないから」(32.7%)、「福祉サービスが充実していないから」(28.1%)、「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」(22.3%)が多くなっています。
- 「買物など日常の生活環境が整っていないから」、「医療が充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「通勤・通学に不便だから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「福祉サービスが充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』が多く、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』と『奈良県外で働いている人』が同程度となっています。



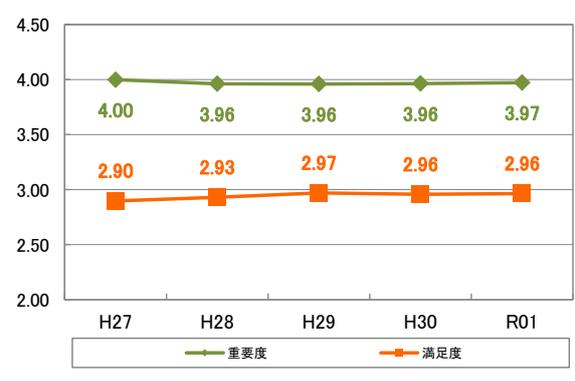
2. 県民の生活に関する重要度・満足度について(問11 5段階ポイント評価)

(1) 県全体

- 身近な生活に関する 33 項目それぞれの重要度と満足度を5点(高い)～1点(低い)の5段階(加重平均)で評価し、重要度と満足度の関係を整理しました。また、重要度と満足度の関係から課題・ニーズの大きさの指標となる「ニーズ得点」を算出しました。(次ページ参照) ニーズ得点は、重要度が高く、満足度が低い項目ほど高くなります。(「ニーズ得点＝重要度(加重平均)×6－満足度(加重平均)×」により算出。)
- 県全体では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「11. 防災対策の充実」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「15. 地域に活気・魅力があること」となっています。



■ 県民の身近な生活に関する 33 項目の重要度と満足度の平均値の推移をみると、重要度の平均値は平成 28 年度からほぼ横ばい傾向となっています。また、満足度の平均値は平成 27 年度から平成 29 年度までは上昇傾向にありましたが、それ以降はほぼ横ばいとなっています。



【身近な生活に関する 33 項目の重要度・満足度・ニーズ得点（5 年間の比較）】

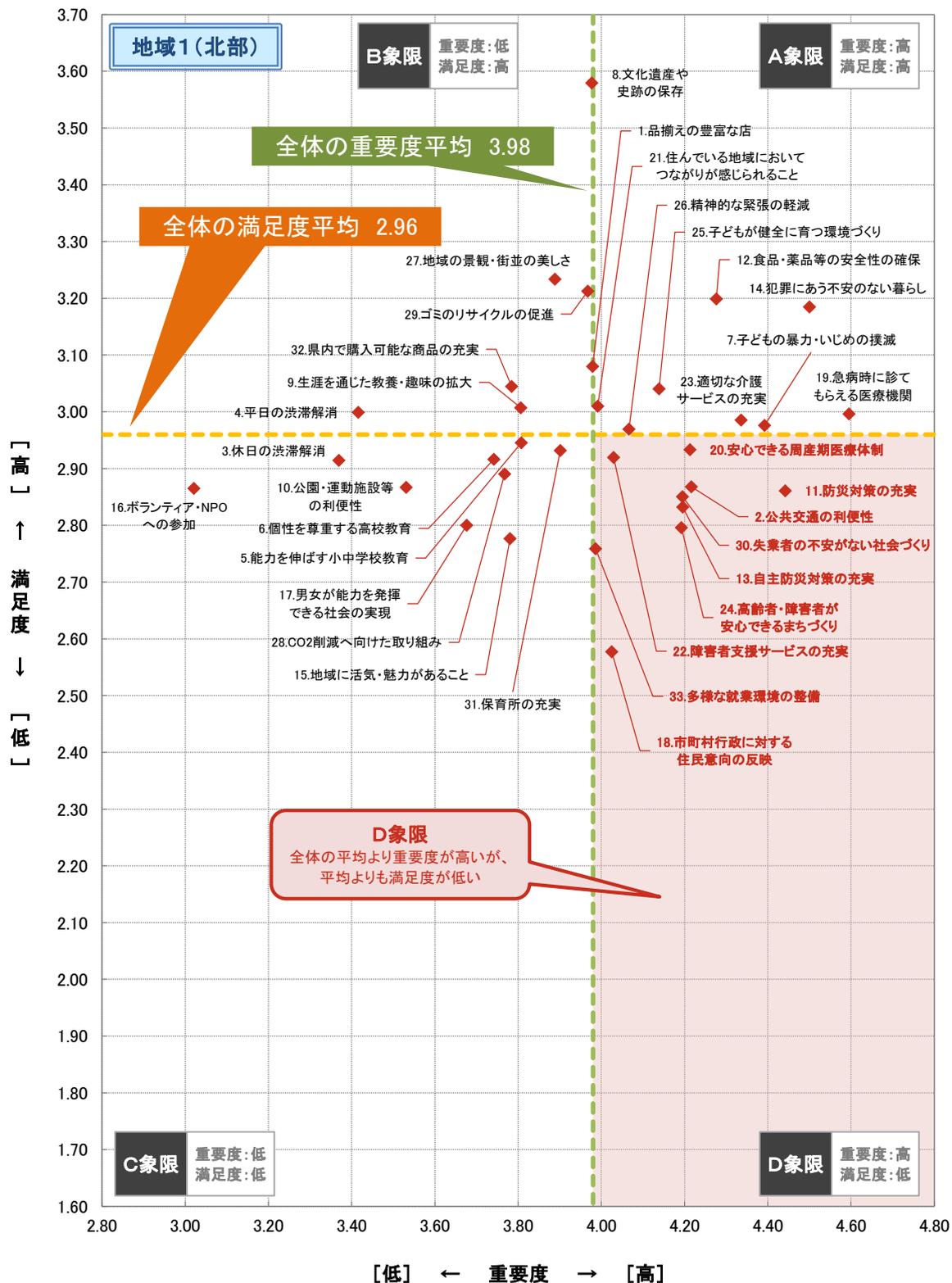
| 項目番号 | 項目 | 重要度 | | | | | 満足度 | | | | | ニーズ得点 | | | | | 象限 | | | | |
|------|--|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | R01 | H30 | H29 | H28 | H27 | R01 | H30 | H29 | H28 | H27 | R01 | H30 | H29 | H28 | H27 | R01 | H30 | H29 | H28 | H27 |
| 1 | 品揃えの豊富な店が近くにあること | 3.98 | 3.97 | 4.03 | 3.90 | 3.95 | 3.03 | 3.00 | 3.06 | 3.09 | 2.94 | 11.84 | 11.90 | 11.82 | 11.33 | 12.09 | A | A | A | B | B |
| 2 | 電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと | 4.19 | 4.13 | 4.12 | 4.11 | 4.10 | 2.79 | 2.84 | 2.89 | 3.01 | 2.81 | 13.45 | 13.06 | 12.80 | 12.28 | 13.10 | D | D | D | A | D |
| 3 | 休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと | 3.35 | 3.42 | 3.37 | 3.42 | 3.39 | 3.01 | 2.97 | 2.96 | 2.98 | 2.97 | 10.02 | 10.35 | 10.23 | 10.32 | 10.26 | B | B | C | B | B |
| 4 | 平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと | 3.39 | 3.43 | 3.38 | 3.38 | 3.38 | 3.08 | 3.06 | 3.07 | 3.08 | 3.05 | 9.92 | 10.06 | 9.91 | 9.88 | 9.95 | B | B | B | B | B |
| 5 | 小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること | 3.81 | 3.82 | 3.85 | 3.84 | 3.89 | 2.95 | 2.96 | 2.96 | 2.96 | 2.91 | 11.63 | 11.62 | 11.70 | 11.67 | 12.01 | C | B | C | B | B |
| 6 | 高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること | 3.76 | 3.72 | 3.75 | 3.76 | 3.79 | 2.91 | 2.92 | 2.92 | 2.91 | 2.88 | 11.61 | 11.46 | 11.53 | 11.61 | 11.81 | C | C | C | C | C |
| 7 | 子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと | 4.40 | 4.36 | 4.43 | 4.42 | 4.46 | 3.01 | 3.01 | 2.99 | 2.94 | 2.90 | 13.19 | 13.04 | 13.34 | 13.55 | 13.84 | A | A | A | A | D |
| 8 | 文化遺産や史跡が大事にされること | 3.96 | 3.97 | 4.03 | 3.96 | 4.00 | 3.57 | 3.51 | 3.55 | 3.58 | 3.52 | 9.60 | 9.87 | 9.84 | 9.59 | 9.92 | B | A | A | A | B |
| 9 | 生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること | 3.78 | 3.77 | 3.78 | 3.77 | 3.83 | 3.00 | 3.03 | 3.03 | 3.02 | 2.99 | 11.34 | 11.20 | 11.23 | 11.23 | 11.51 | B | B | B | B | B |
| 10 | 公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと | 3.51 | 3.52 | 3.52 | 3.53 | 3.53 | 2.90 | 2.95 | 2.96 | 2.92 | 2.86 | 10.89 | 10.73 | 10.70 | 10.88 | 11.09 | C | C | C | C | C |
| 11 | 地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること | 4.44 | 4.38 | 4.39 | 4.42 | 4.42 | 2.89 | 2.91 | 2.93 | 2.83 | 2.83 | 13.81 | 13.55 | 13.49 | 14.02 | 14.01 | D | D | D | D | D |
| 12 | 食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること | 4.28 | 4.28 | 4.27 | 4.29 | 4.32 | 3.21 | 3.16 | 3.20 | 3.18 | 3.13 | 11.94 | 12.13 | 11.98 | 12.12 | 12.42 | A | A | A | A | A |
| 13 | 家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと | 4.19 | 4.14 | 4.16 | 4.19 | 4.16 | 2.84 | 2.79 | 2.79 | 2.72 | 2.76 | 13.25 | 13.31 | 13.35 | 13.76 | 13.48 | D | D | D | D | D |
| 14 | 住民が犯罪に遭うことなく、その不安も感じることなく暮らせること | 4.51 | 4.48 | 4.50 | 4.50 | 4.53 | 3.22 | 3.16 | 3.20 | 3.14 | 3.09 | 12.56 | 12.76 | 12.61 | 12.90 | 13.19 | A | A | A | A | A |
| 15 | 自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること | 3.78 | 3.79 | 3.80 | 3.79 | 3.84 | 2.72 | 2.69 | 2.73 | 2.69 | 2.62 | 12.41 | 12.53 | 12.42 | 12.56 | 12.98 | C | C | C | C | C |
| 16 | ボランティア・NPO活動に参加できること | 3.03 | 3.05 | 3.03 | 3.03 | 3.06 | 2.84 | 2.84 | 2.85 | 2.84 | 2.82 | 9.58 | 9.63 | 9.55 | 9.58 | 9.71 | C | C | C | C | C |
| 17 | 男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること | 3.69 | 3.68 | 3.65 | 3.67 | 3.72 | 2.78 | 2.77 | 2.82 | 2.78 | 2.75 | 11.86 | 11.90 | 11.60 | 11.82 | 12.09 | C | C | C | C | C |
| 18 | 市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること | 4.02 | 3.98 | 3.96 | 4.00 | 4.03 | 2.56 | 2.58 | 2.61 | 2.53 | 2.53 | 13.83 | 13.63 | 13.41 | 13.88 | 13.96 | D | D | C | D | D |
| 19 | 急病時に診てもらえる医療機関があること | 4.58 | 4.57 | 4.58 | 4.57 | 4.62 | 3.00 | 3.01 | 2.95 | 2.84 | 2.84 | 13.73 | 13.67 | 13.95 | 14.43 | 14.61 | A | A | D | D | D |
| 20 | 安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること | 4.23 | 4.21 | 4.22 | 4.24 | 4.31 | 2.85 | 2.80 | 2.83 | 2.78 | 2.70 | 13.32 | 13.47 | 13.40 | 13.66 | 14.22 | D | D | D | D | D |
| 21 | 住んでいる地域において、互いに見守り、助け合うなどつながりが感じられること | 3.98 | 3.99 | 3.98 | 3.92 | — | 3.05 | 3.00 | 3.04 | 2.98 | — | 11.74 | 11.99 | 11.77 | 11.87 | — | A | A | A | B | — |
| 22 | 障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること | 4.02 | 4.03 | 4.01 | 3.99 | 4.13 | 2.92 | 2.88 | 2.90 | 2.88 | 2.82 | 12.40 | 12.56 | 12.44 | 12.48 | 13.14 | D | D | D | D | D |
| 23 | 高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること | 4.32 | 4.31 | 4.29 | 4.26 | 4.40 | 2.98 | 2.97 | 2.98 | 2.92 | 2.87 | 13.06 | 13.04 | 12.97 | 13.11 | 13.75 | A | A | A | D | D |
| 24 | 高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること | 4.17 | 4.16 | 4.14 | 4.12 | 4.21 | 2.77 | 2.82 | 2.83 | 2.80 | 2.74 | 13.47 | 13.22 | 13.13 | 13.20 | 13.72 | D | D | D | D | D |
| 25 | 地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること | 4.15 | 4.18 | 4.15 | 4.15 | 4.22 | 3.03 | 3.04 | 3.04 | 2.98 | 2.95 | 12.35 | 12.40 | 12.28 | 12.54 | 12.87 | A | A | A | A | A |
| 26 | イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと | 4.05 | 4.05 | 4.03 | 4.06 | 4.03 | 2.97 | 2.97 | 2.99 | 2.92 | 2.94 | 12.25 | 12.26 | 12.14 | 12.50 | 12.33 | A | A | A | D | A |
| 27 | 自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと | 3.91 | 3.92 | 3.91 | 3.90 | 3.92 | 3.21 | 3.21 | 3.26 | 3.19 | 3.16 | 10.94 | 10.95 | 10.74 | 10.97 | 11.14 | B | B | B | B | B |
| 28 | 一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと | 3.77 | 3.71 | 3.68 | 3.67 | 3.75 | 2.87 | 2.89 | 2.89 | 2.86 | 2.88 | 11.79 | 11.54 | 11.44 | 11.52 | 11.70 | C | C | C | C | C |
| 29 | ゴミのリサイクルのしくみが整っていること | 3.97 | 3.95 | 3.86 | 3.84 | 3.95 | 3.23 | 3.26 | 3.26 | 3.15 | 3.24 | 11.01 | 10.82 | 10.56 | 10.96 | 10.88 | A | B | B | B | B |
| 30 | 失業の不安がなく働けること | 4.17 | 4.15 | 4.16 | 4.22 | 4.26 | 2.83 | 2.82 | 2.81 | 2.73 | 2.70 | 13.19 | 13.18 | 13.29 | 13.82 | 14.07 | D | D | D | D | D |
| 31 | 保育所の数や定員を増やすことにより、待機児童を解消すること | 3.88 | 3.90 | 3.88 | 3.93 | 3.94 | 3.01 | 3.00 | 3.00 | 2.90 | 2.91 | 11.58 | 11.69 | 11.64 | 12.18 | 12.16 | B | B | B | C | B |
| 32 | 県内で買いたいものが販売されていること | 3.79 | 3.80 | 3.79 | 3.81 | 3.76 | 3.04 | 2.99 | 2.99 | 2.94 | 2.98 | 11.22 | 11.43 | 11.42 | 11.67 | 11.37 | B | B | B | B | B |
| 33 | いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること | 4.00 | 3.95 | 3.96 | 4.03 | 4.03 | 2.72 | 2.71 | 2.67 | 2.59 | 2.59 | 13.10 | 13.01 | 13.18 | 13.72 | 13.74 | D | C | C | D | D |

(注) 「重要度と満足度の関係」の各年度のA～Dの記号の対応については、前ページのA～D象限に対応している。網掛けした項目は満足度が当該年度の全項目の平均値を下回るもの(C象限・D象限)であり、濃い網掛けはそのうち重要度が平均値を上回るもの(D象限)。すなわち重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目である。なお、「—」はその年度において未調査のため、数値がないことを示している。

(2) 地域別

①地域1 (北部)

- 『地域1(北部)』では、「11. 防災対策の充実」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「27. 地域の景観・街並の美しさ」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。

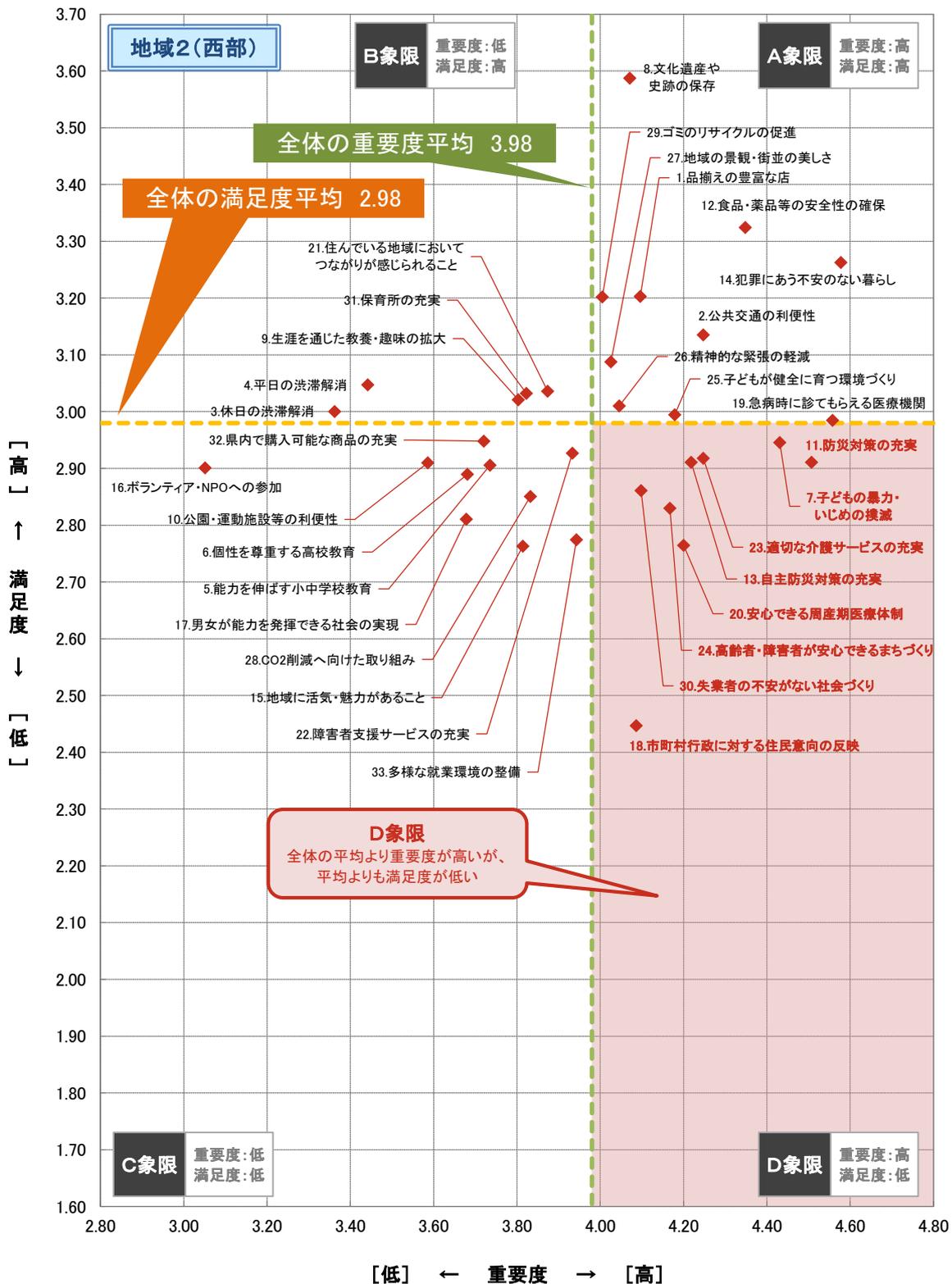


②地域2（西部）

■『地域2（西部）』では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「11. 防災対策の充実」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。

■重要度でみると、「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」が最も高く、次いで「19. 急病時に診てもらえる医療機関」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「12. 食品・薬品等の安全性の確保」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「15. 地域に活気・魅力があること」となっています。

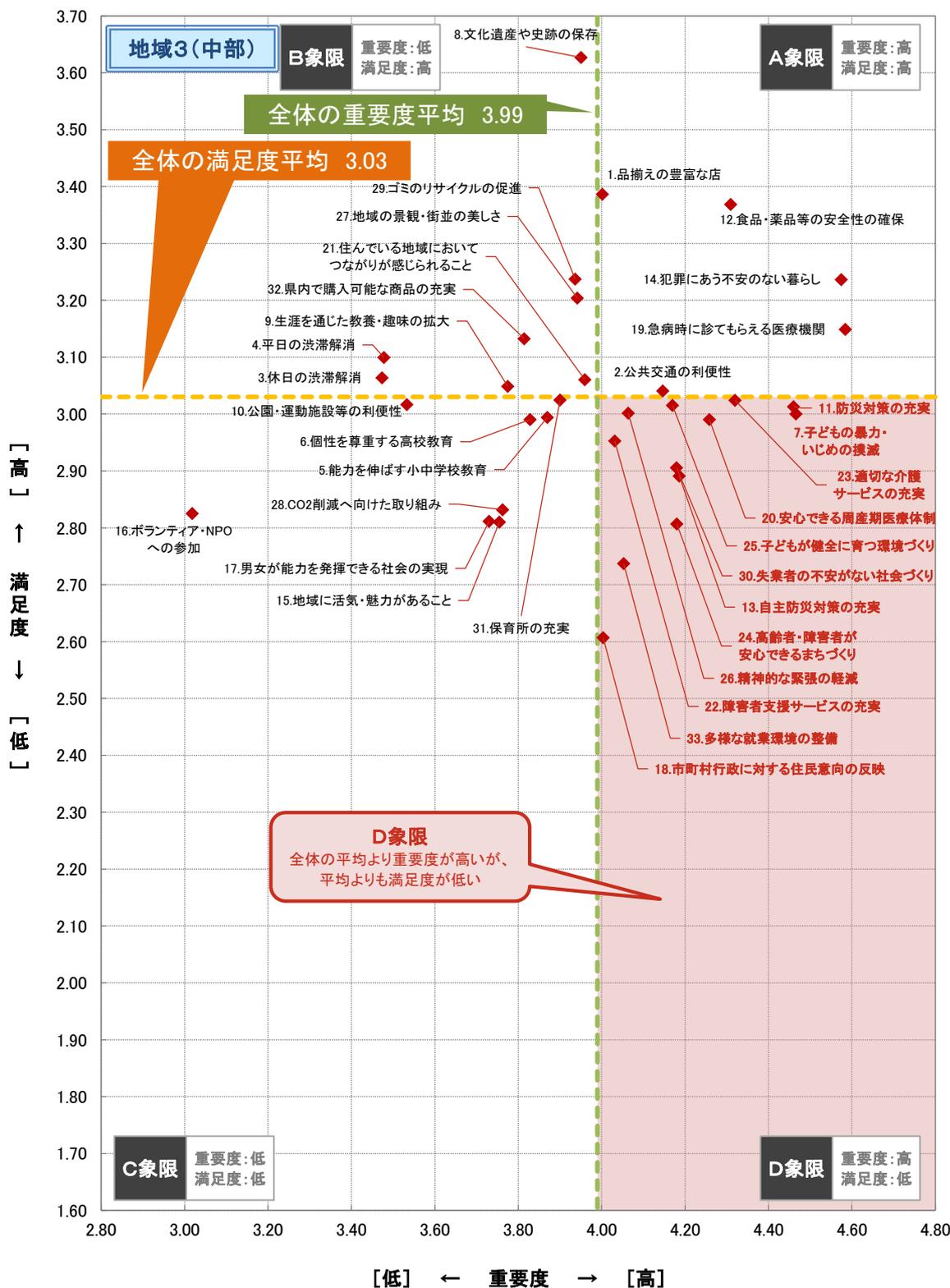


③地域3（中部）

■『地域3（中部）』では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」、「24. 高齢者・障害者が安心できるまちづくり」などのニーズ得点が高くなっています。

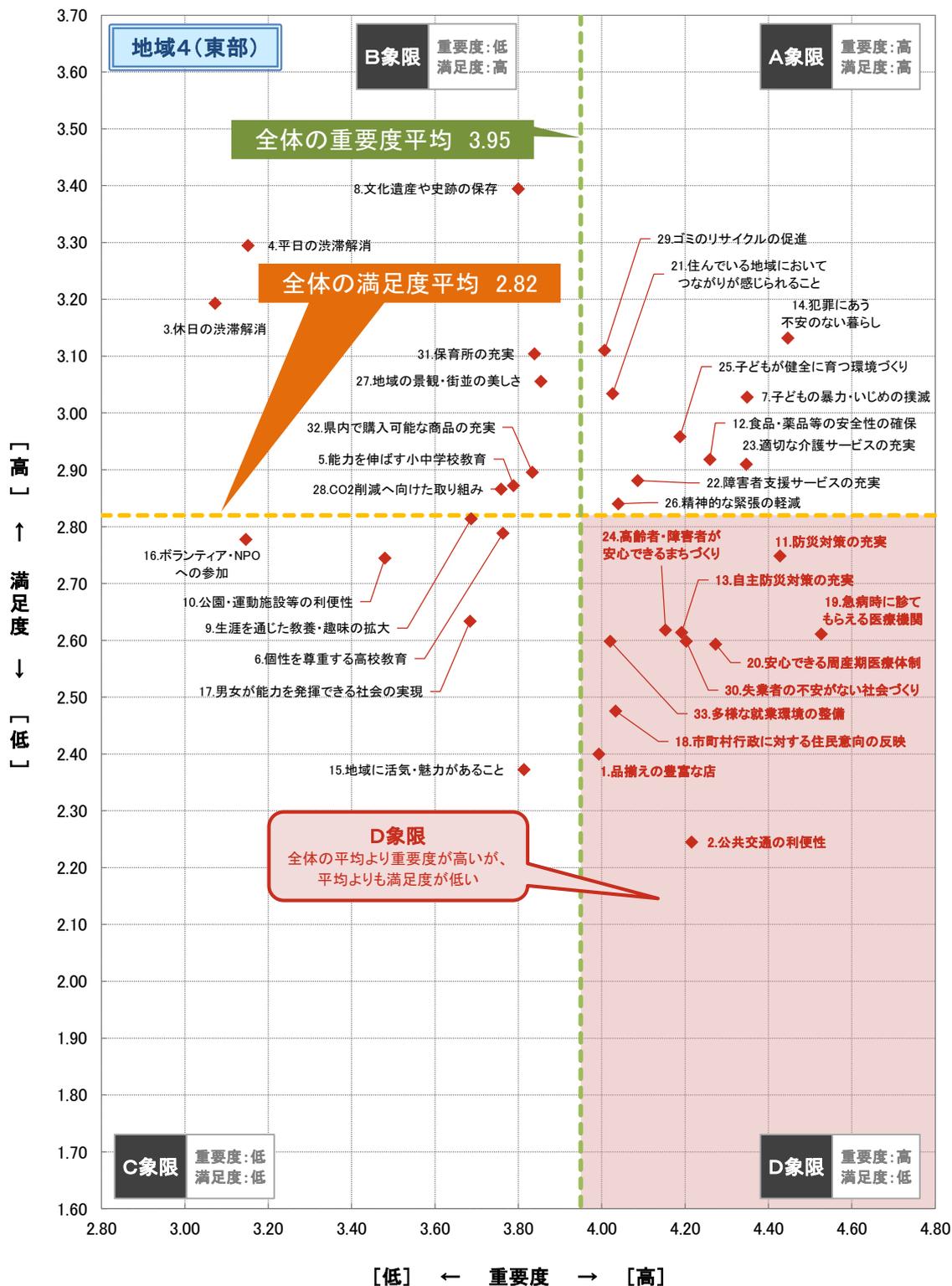
■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



④地域4（東部）

- 『地域4（東部）』では、「2. 公共交通の利便性」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「20. 安心できる周産期医療体制」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「3. 休日の渋滞解消」は最も低く、次いで「16. ボランティア・NPOへの参加」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「15. 地域に活気・魅力があること」となっています。

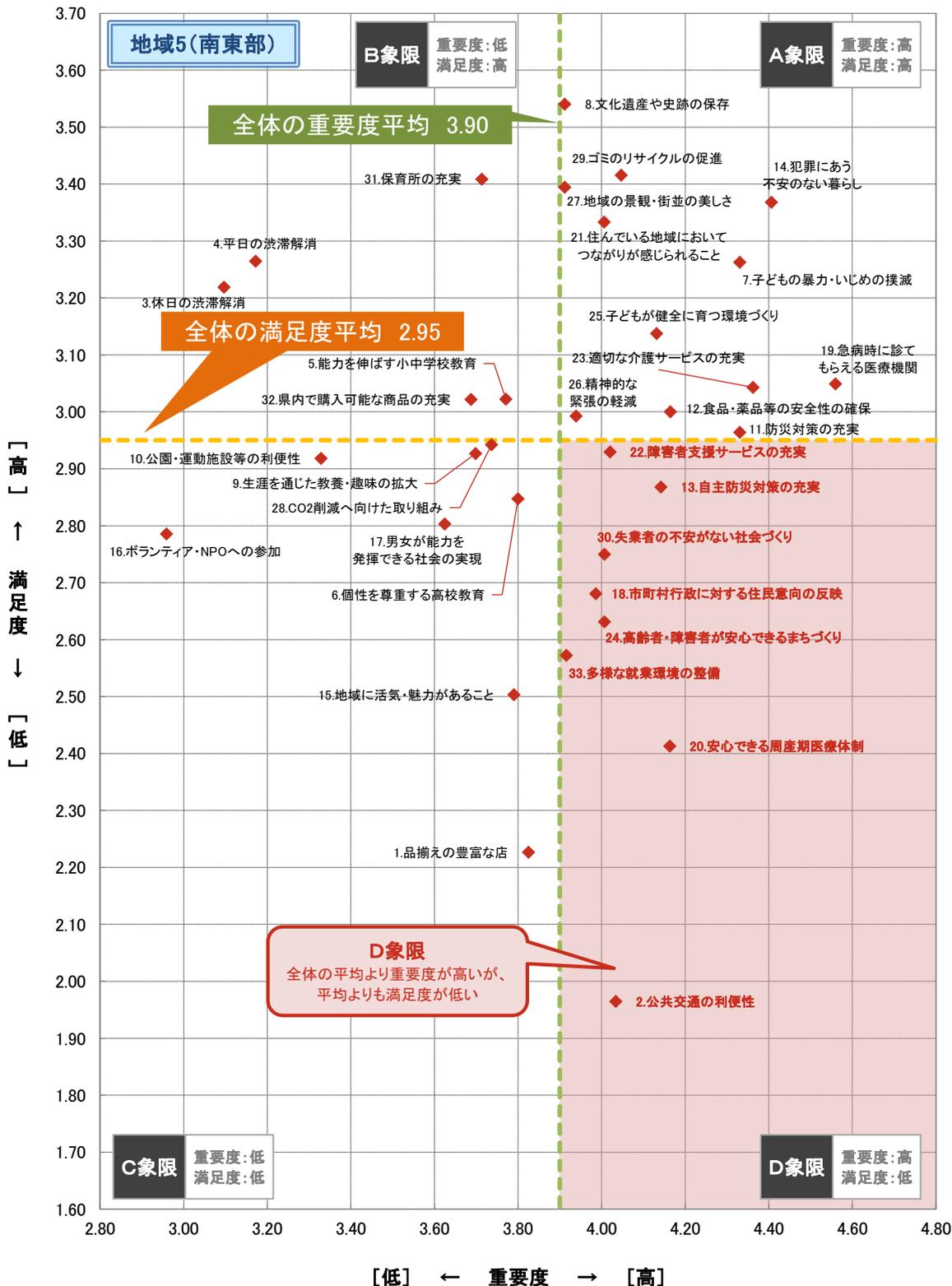


⑤地域5（南東部）

■『地域5(南東部)』では、「2. 公共交通の利便性」、「20. 安心できる周産期医療体制」、「1. 品揃えの豊富な店」などのニーズ得点が高くなっています。

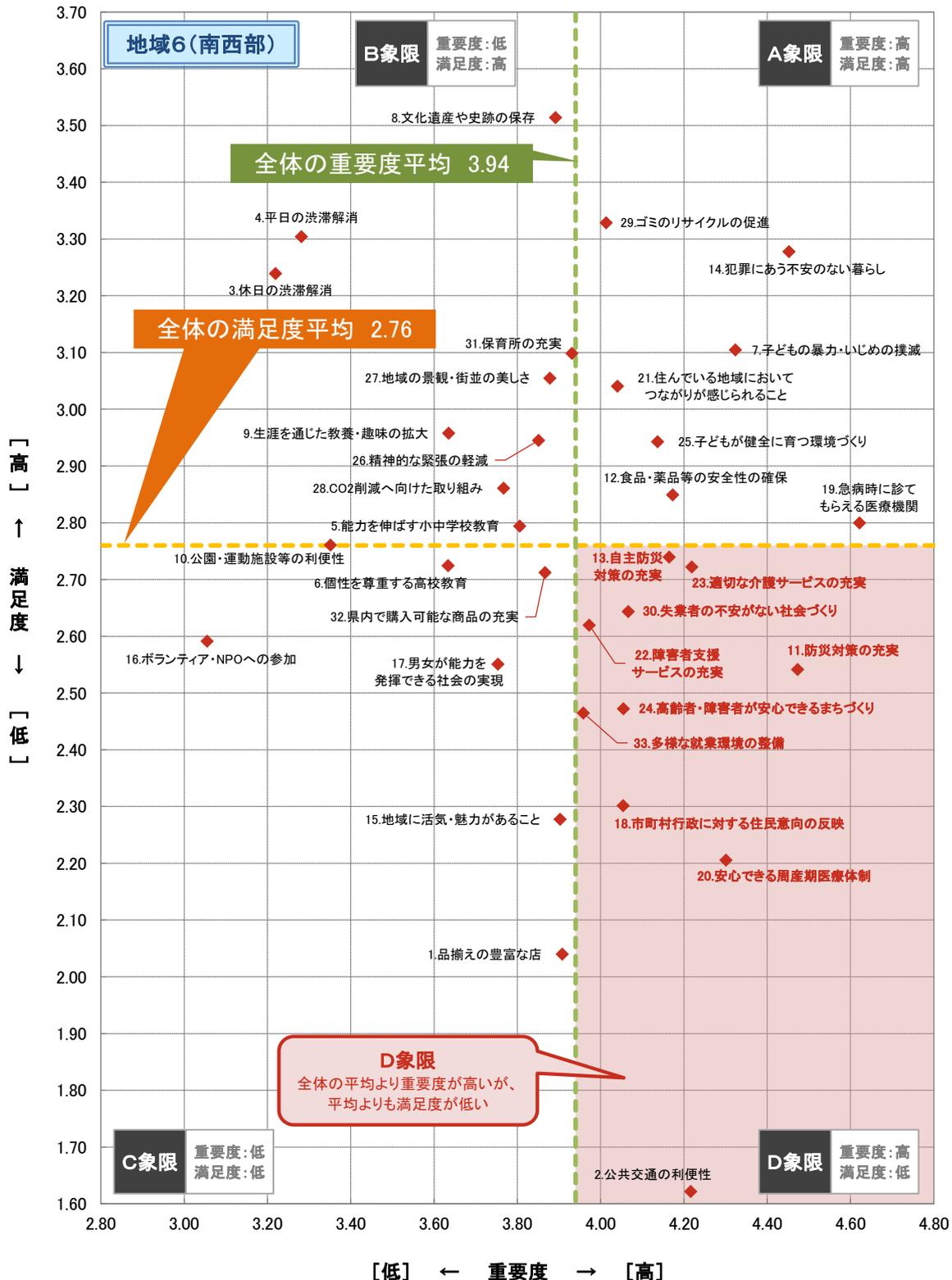
■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。



⑥地域6（南西部）

- 『地域6(南西部)』では、「2. 公共交通の利便性」、「20. 安心できる周産期医療体制」、「1. 品揃えの豊富な店」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「11. 防災対策の充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの推進」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。

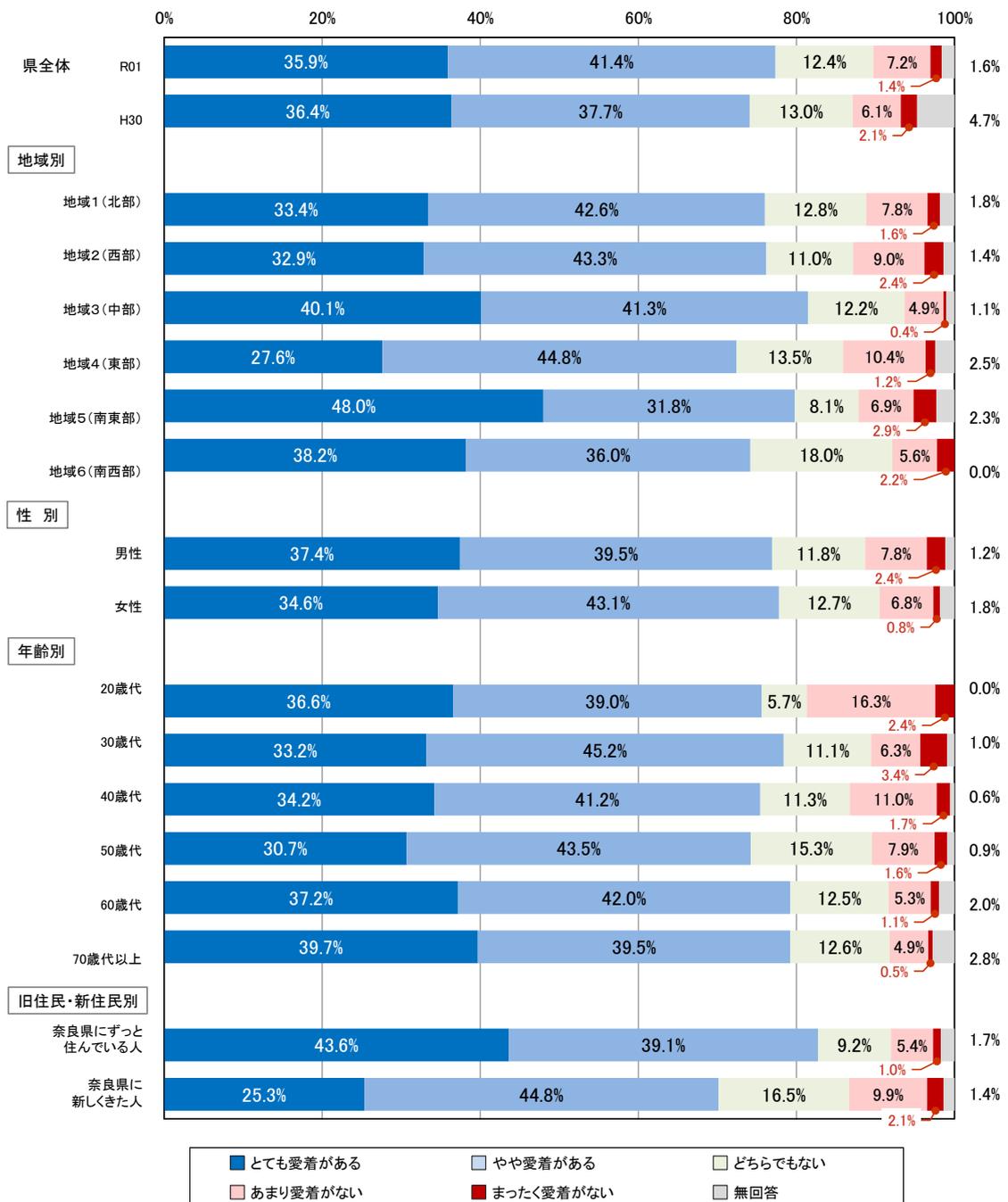


3～12. 県民の生活に関する意識やニーズについて

3. 奈良県への愛着について

(1) 奈良県への愛着 (問12)

- 奈良県への愛着については、「愛着がある」(「とても愛着がある」+「やや愛着がある」)と答えた人の割合は 77.3%で平成 30 年度(74.1%)より 3.2 ポイント増加し、「愛着がない」(「あまり愛着がない」+「まったく愛着がない」)と答えた人の割合は 8.7%で平成 30 年度(8.2%)より 0.5 ポイント増加しています。
- 「愛着がある」と答えた人の割合を地域別にみると、『地域3(中部)』(81.4%)が最も多く、次いで『地域5(南東部)』(79.8%)となっています。一方、『地域4(東部)』(72.4%)で最も少なくなっています。
- 「愛着がある」と答えた人の割合を性別にみると、『女性』(77.8%)の方が『男性』(76.9%)より 0.9 ポイント多くなっています。
- 「愛着がある」と答えた人の割合を年齢別にみると、『60 歳代』と『70 歳代以上』(ともに 79.2%)が最も多くなっています。一方、「愛着がない」と答えた人の割合は『20 歳代』(18.7%)と『40 歳代』(12.7%)で 10%を超えています。
- 「愛着がある」と答えた人の割合を旧住民・新住民別にみると、『奈良県にずっと住んでいる人』(82.7%)の方が『奈良県に新しくきた人』(70.1%)より 12.6 ポイント多くなっています。

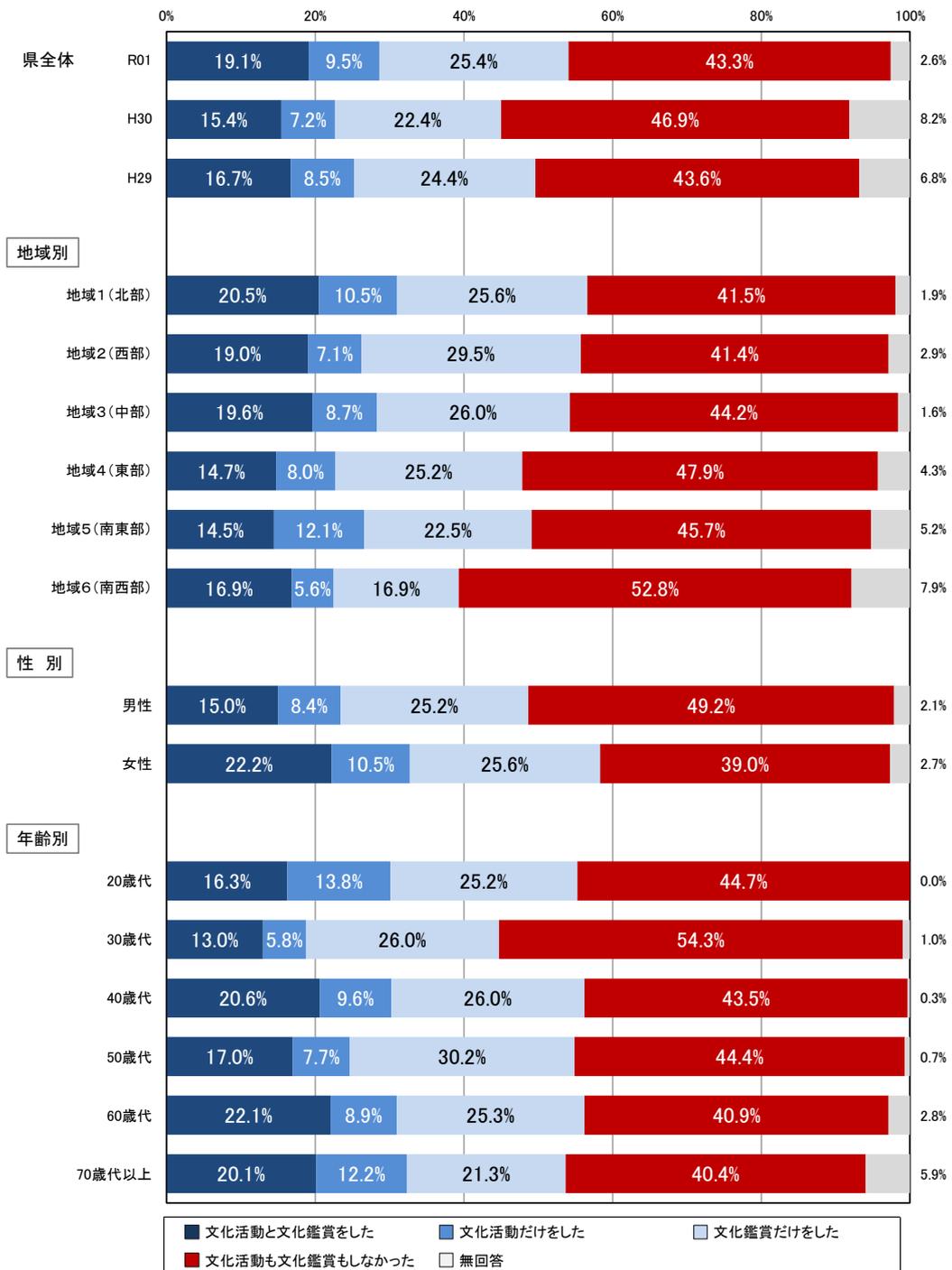


※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

4. 文化振興について

(1) この1年間の文化活動・文化鑑賞の有無 (問13)

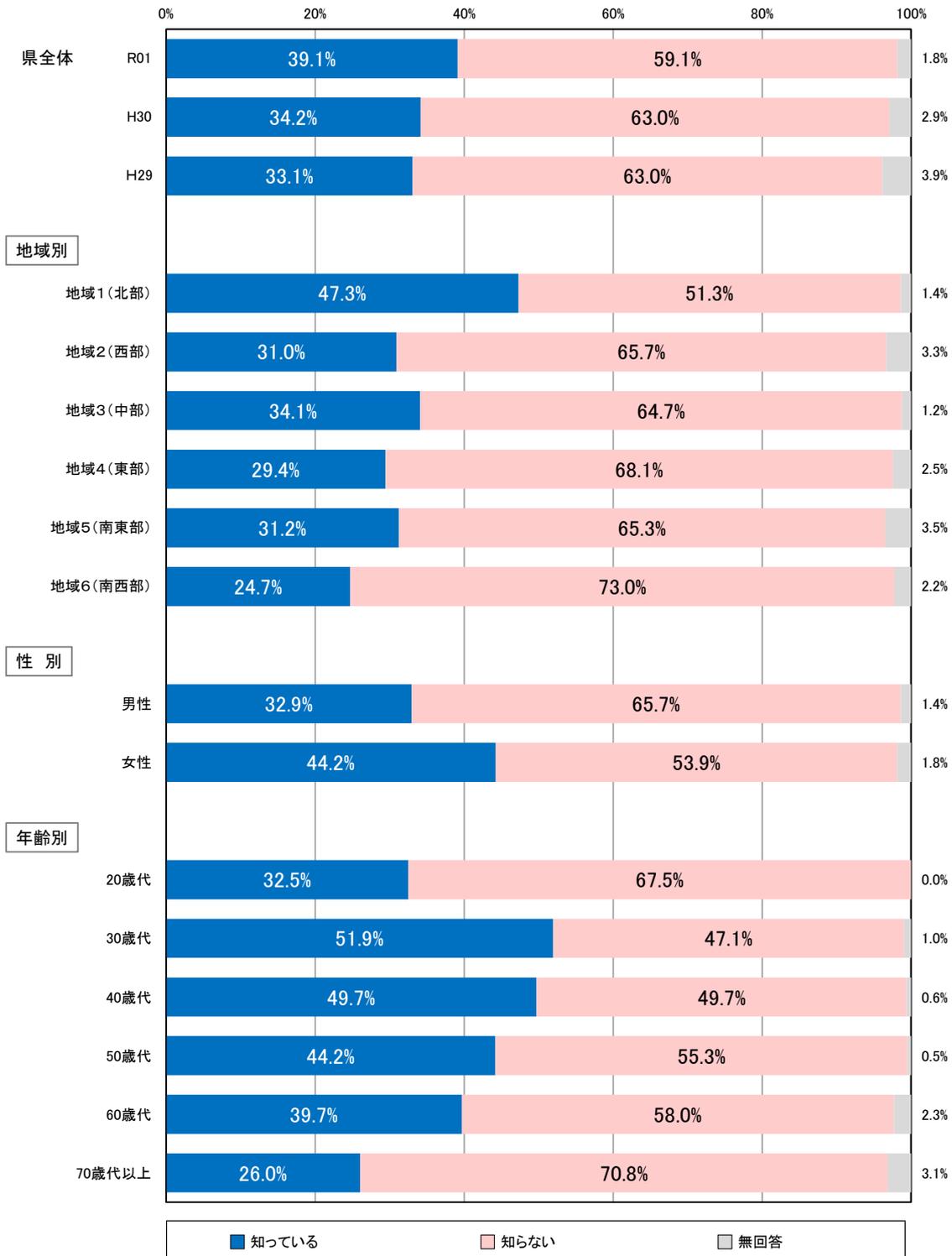
- この1年間の文化活動・文化鑑賞*の有無については、「文化活動または文化鑑賞をした人」(「文化活動と文化鑑賞をした」+「文化活動だけをした」+「文化鑑賞だけをした」)の割合は54.1%で、平成30年度(45.0%)と比べて9.1ポイント増加しています。
 [*「文化活動」とは、習い事や趣味の他、楽器の演奏やダンスなど自ら主体的に行う活動全般をいいます。]
 「文化鑑賞」とは、公演・展覧会など鑑賞全般をいいます。(家庭内での音楽鑑賞等を除きます)]
- 「文化活動または文化鑑賞をした人」の割合を地域別にみると、『地域1(北部)』(56.6%)が最も多く、次いで『地域2(西部)』(55.7%)、『地域3(中部)』(54.2%)となっています。一方、『地域6(南西部)』(39.3%)では4割未満となっています。
- 「文化活動または文化鑑賞をした人」の割合を性別にみると、『女性』(58.3%)の方が、『男性』(48.7%)より9.6ポイント多くなっています。
- 「文化活動または文化鑑賞をした人」の割合を年齢別にみると、『40歳代』と『60歳代』(ともに56.2%)が最も多く、次いで『20歳代』(55.3%)となっています。一方、『30歳代』(54.3%)では「文化活動も文化鑑賞もしなかった」と答えた人が半数を超えています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

(2) 「ムジークフェストなら」の認知度 (問14)

- ムジークフェストなら 2018 の認知度については、「知らない」(59.1%)が「知っている」(39.1%)と比べ多くなっています。「知っている」と答えた人は、年々増加傾向にあり、平成30年度(34.2%)と比べて4.9ポイント、平成29年度(33.1%)と比べて6.0ポイント増加しています。
- 「知っている」と答えた人を地域別にみると、『地域1(北部)』(47.3%)が最も多く、唯一4割を超えています。一方、『地域4(東部)』(29.4%)と『地域6(南西部)』(24.7%)では2割台と少なくなっています。
- 「知っている」と答えた人を性別にみると、『女性』(44.2%)の方が『男性』(32.9%)より11.3ポイント多くなっています。
- 「知っている」と答えた人を年齢別にみると、『30歳代』(51.9%)が最も多く、「知っている」が「知らない」を上回っています。次いで「知っている」が多いのは『40歳代』(49.7%)で、「知らない」(49.7%)と同じ割合となっています。他の年齢層では「知らない」が「知っている」を上回っており、「知っている」は『70歳代以上』(26.0%)で最も少なくなっています。

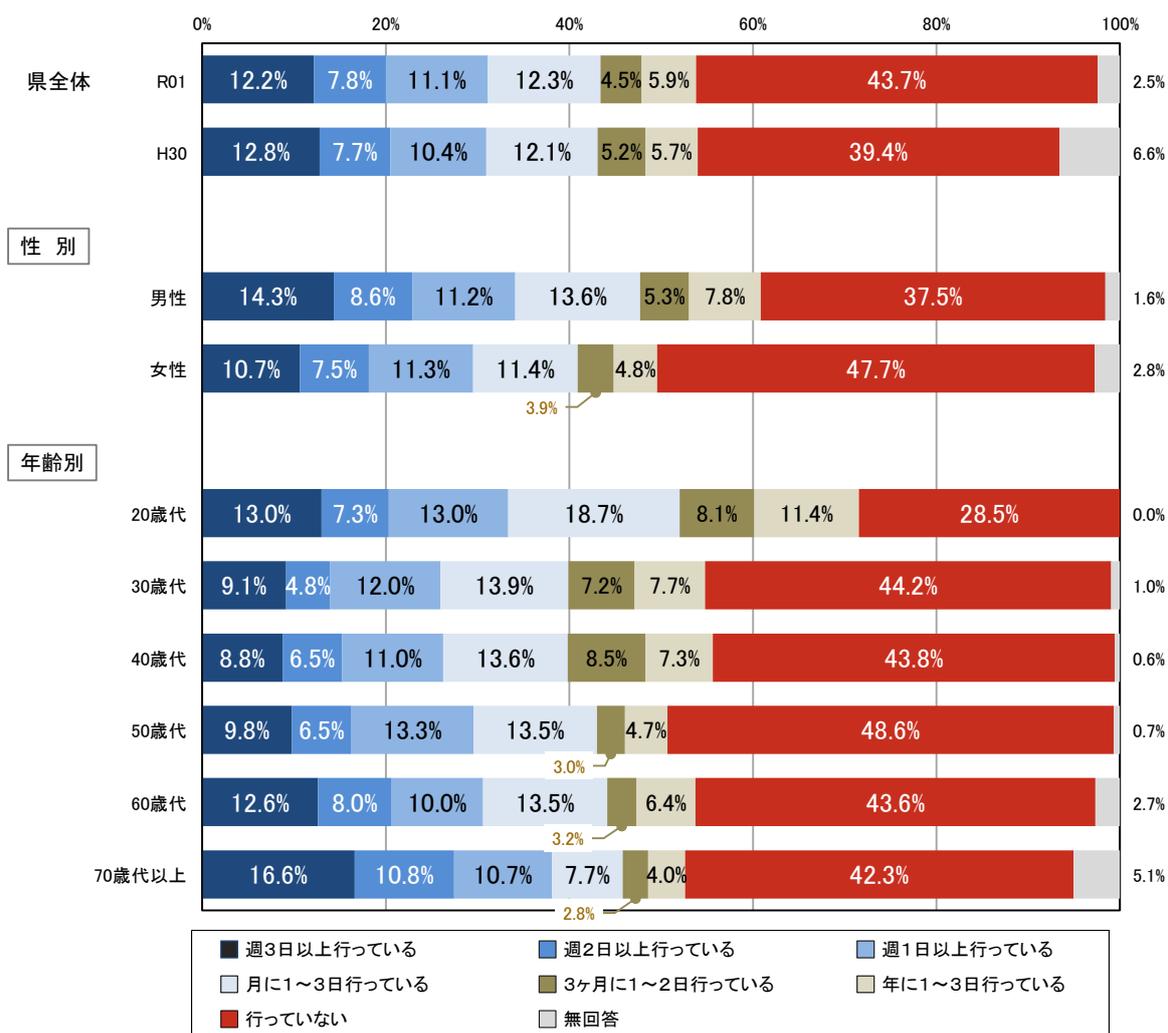


5. スポーツ振興について

(1) この1年間の運動・スポーツの実施状況

①この1年間に運動・スポーツを行った日数 (問18)

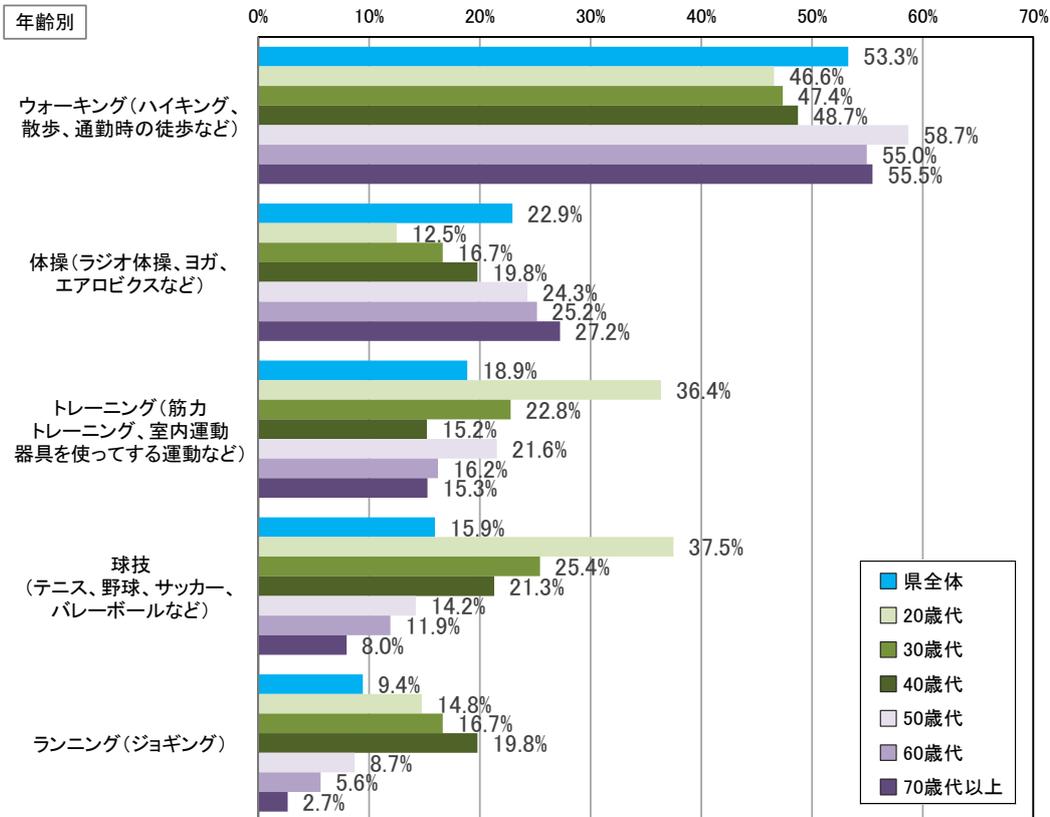
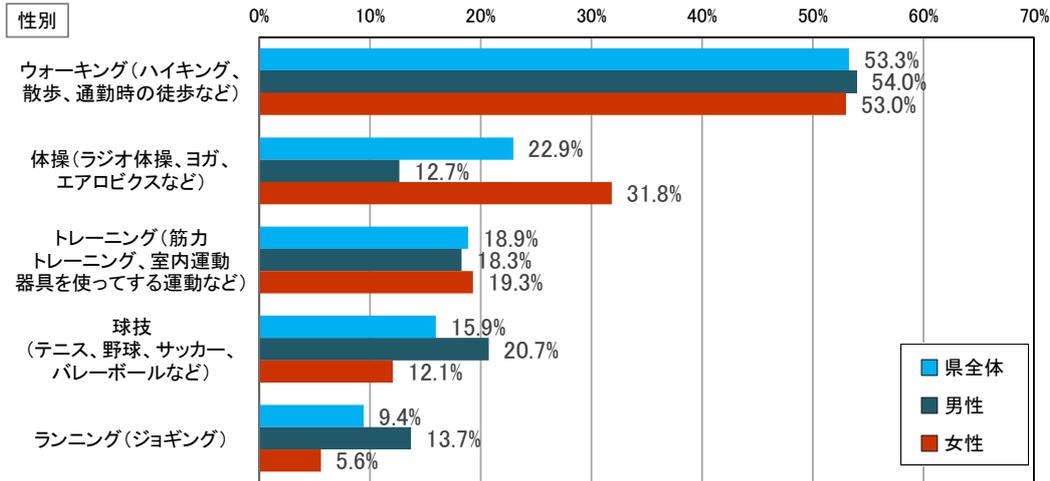
- この1年間に運動・スポーツを1日でも行った人の割合(「週3日以上行っている」～「年に1～3日行っている」の合計)は 53.8%で、平成30年度(54.0%)と比べて0.2ポイント減少しています。一方、「行っていない」と答えた人は43.7%で、平成30年度(39.4%)と比べて4.3ポイント増加しています。
- 1日でも行った人の割合を性別にみると、『男性』(60.9%)の方が『女性』(49.6%)より11.3ポイント多くなっています。
- 1日でも行った人の割合を年齢別にみると、『20歳代』(71.5%)が最も多く、他の年齢層では5割台となっています。また、『70歳代以上』では、「週に3日以上行っている」と答えた人が他の年代と比べて多くなっています。一方、「行っていない」と答えた人は『50歳代』(48.6%)で最も多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

②運動実施者の運動の種類（問 19 県全体についての上位 5 項目を掲載）

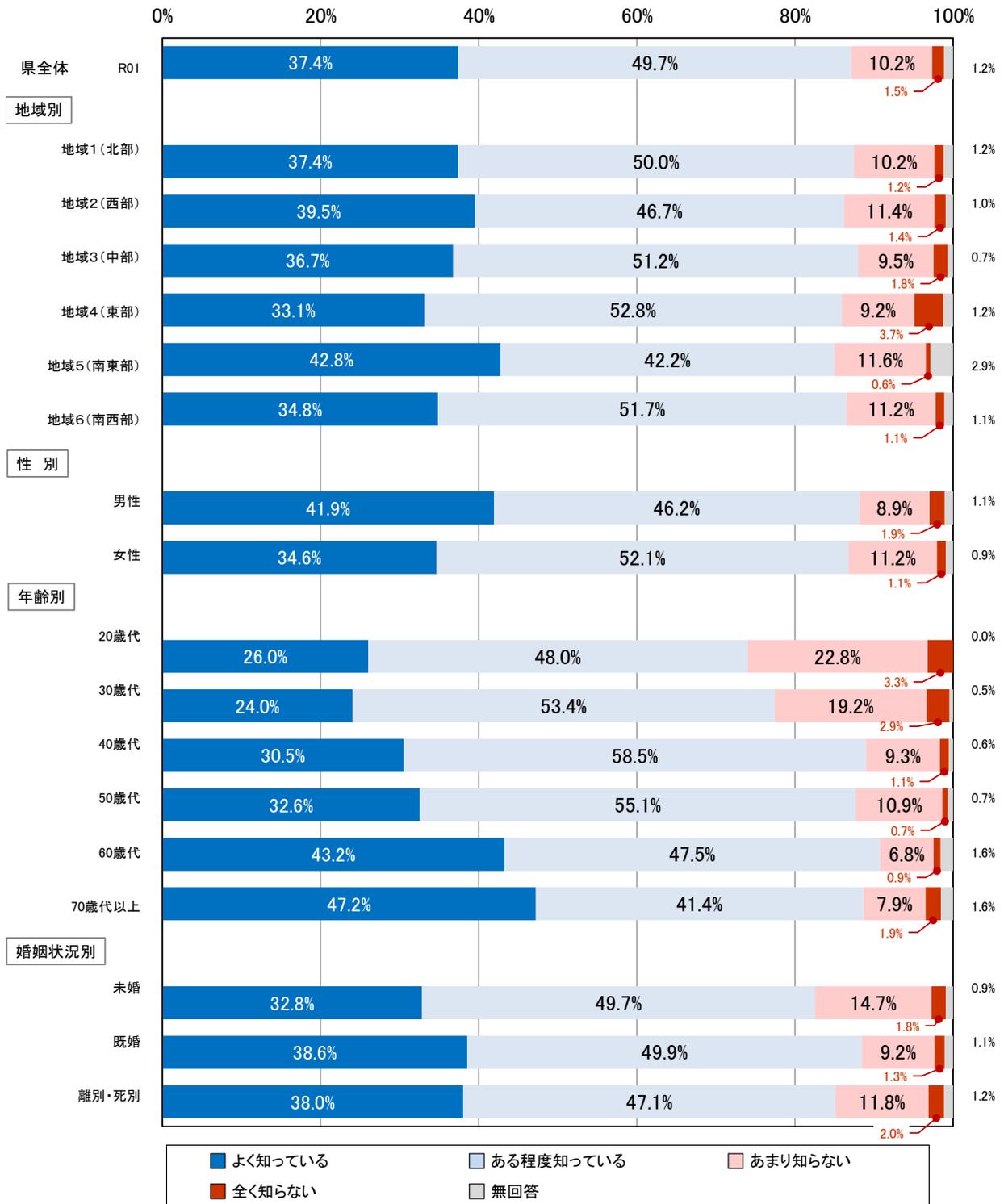
- 運動実施者の運動の種類について尋ねたところ、「ウォーキング」(53.3%)が最も多く、次いで「体操」(22.9%)、「トレーニング」(18.9%)、「球技」(15.9%)、「ランニング」(9.4%)となっています。
- 「ウォーキング」と答えた人については、性別では『男性』が多く、年齢別では『50 歳代』が最も多くなっています。
- 「体操」と答えた人については、性別では『女性』が多く、年齢別では年齢層が上がるほど多くなっています。
- 「トレーニング」と答えた人については、性別では『女性』が多く、年齢別では『20 歳代』が最も多くなっています。
- 「球技」と答えた人については、性別では『男性』、年齢別では年齢層が下がるほど多くなっています。
- 「ランニング」と答えた人については、性別では『男性』、年齢別では『40 歳代』が最も多くなっています。



6. 食品ロス削減について

(1) 「食品ロス」問題の認知度 (問 20)

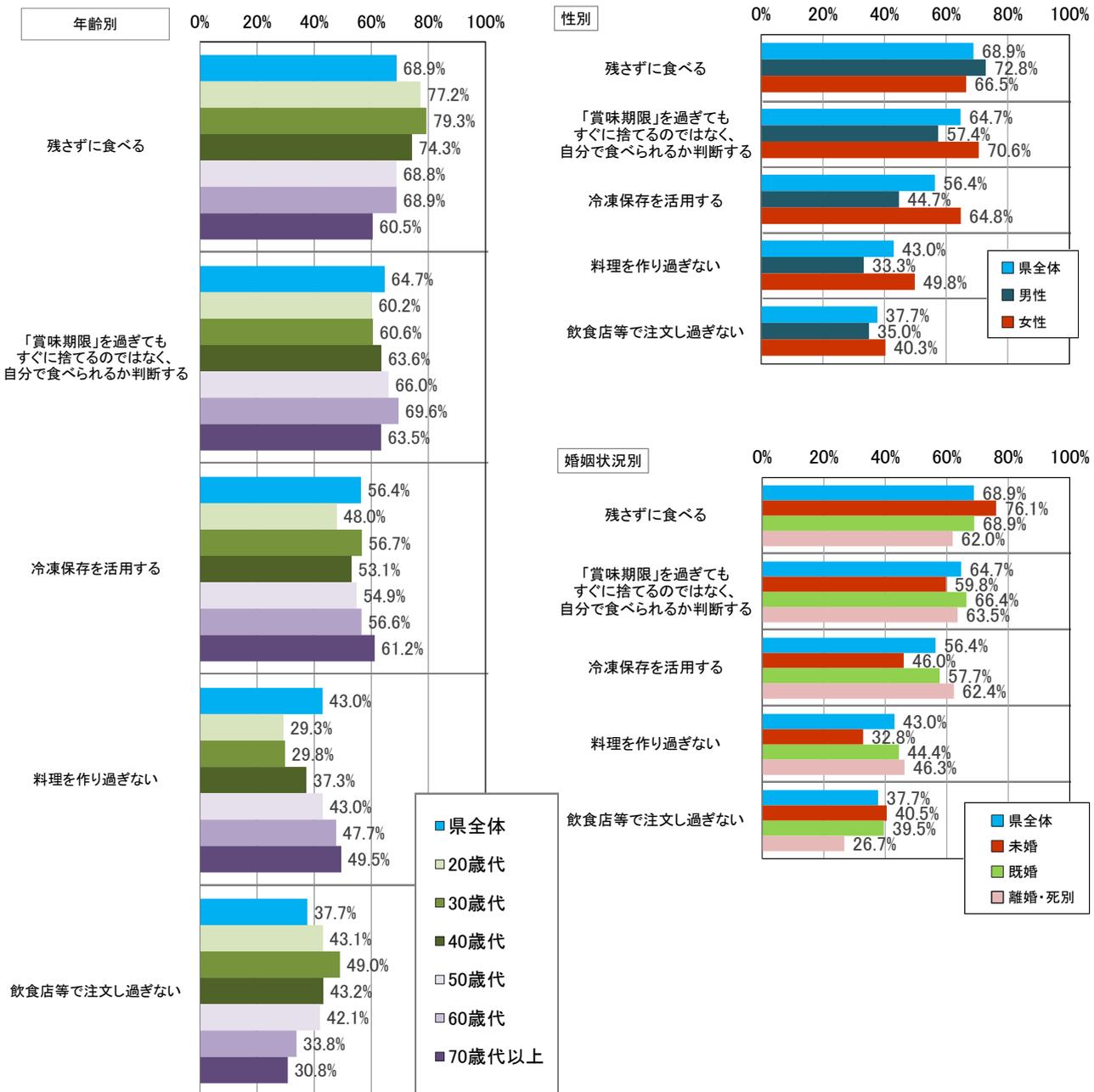
- 「食品ロス」問題の認知度については、「知っている」(「よく知っている」+「ある程度知っている」)人は87.1%となっています。
〔*「食品ロス」とは、食べられるのに廃棄される食品のことで、食料資源の浪費や環境への負荷などの観点から問題となっています。〕
- 地域別にみると、「知っている」人が最も多いのは『地域3(中部)』(88.0%)で、次いで『地域1(北部)』(87.4%)となっています。「知っている」人が最も少ない『地域5(南東部)』でも「知っている」は85.0%となっています。
- 「知っている」人の割合を性別にみると、『男性』(88.1%)の方が、『女性』(86.7%)より1.4ポイント多くなっています。
- 「知っている」人の割合を年齢別にみると、『60歳代』(90.7%)が最も多く、次いで『40歳代』(89.0%)となっています。一方、『20歳代』(74.0%)、『30歳代』(77.4%)では、「知っている」人は8割未満となっています。
- 「知っている」人の割合を婚姻状況別にみると、『既婚』(88.4%)が最も多く、『未婚』(82.5%)が最も少なくなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

(2) 「食品ロス」削減への取り組み (問21 県全体についての上位5項目を掲載)

- 「食品ロス」削減への取り組みについて尋ねたところ、「残さず食べる」(68.9%)が最も多く、次いで「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」(64.7%)、「冷凍保存を活用する」(56.4%)、「料理を作りすぎない」(43.0%)、「飲食店等で注文し過ぎない」(37.7%)が多くなっています。
- 「残さず食べる」と答えた人については、年齢別では『30歳代』、性別では『男性』、婚姻状況別では『未婚』が最も多くなっています。
- 「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」と答えた人については、年齢別では『60歳代』、性別では『女性』、婚姻状況別では『既婚』が最も多くなっています。
- 「冷凍保存を活用する」、「料理を作りすぎない」と答えた人については、年齢別では『70歳代以上』、性別では『女性』、婚姻状況別では『離婚・死別』が最も多くなっています。
- 「飲食店等で注文し過ぎない」と答えた人については、年齢別では『30歳代』、性別では『女性』が多く、婚姻状況別では『未婚』が最も多くなっています。



7. 安全・安心の確保について

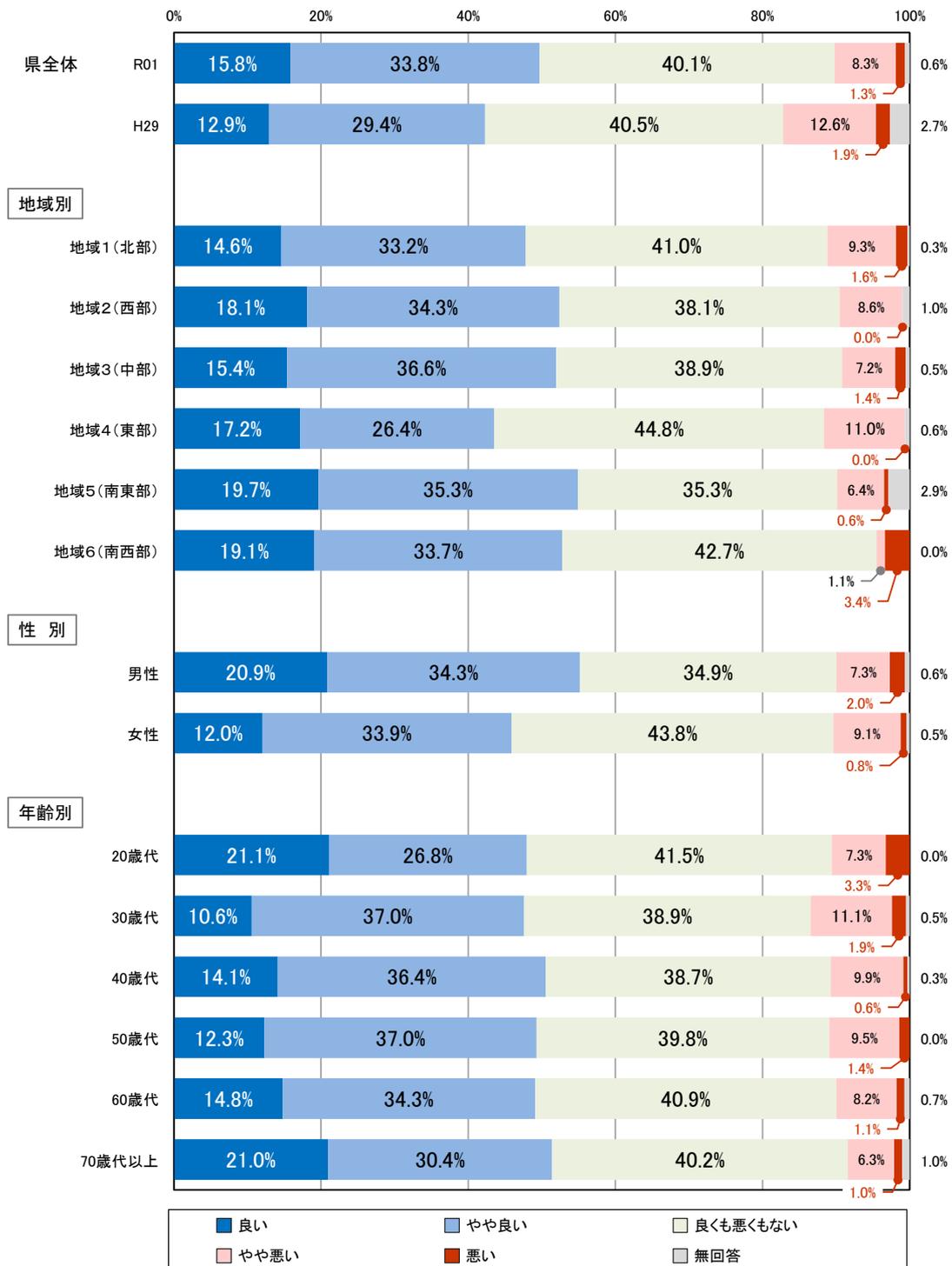
(1) 現在の奈良県の治安情勢 (問 22)

■奈良県の治安情勢については、「良い」(「良い」+「やや良い」)と感じている人が49.7%、「良くも悪くもない」と感じている人が40.1%となっています。「悪い」(「悪い」+「やや悪い」)と感じている人は9.6%となっています。平成29年度と比べると、「良い」と感じている人は7.4ポイント増加しています。

■「良い」と感じている人の割合を地域別にみると、『地域5(南東部)』(54.9%)で最も多く、次いで『地域6(南西部)』(52.8%)、『地域2(西部)』(52.4%)となっています。一方、『地域4(東部)』では43.6%と少なくなっています。

■「良い」と感じている人の割合を性別でみると、『男性』(55.2%)の方が『女性』(45.9%)より9.3ポイント多くなっています。

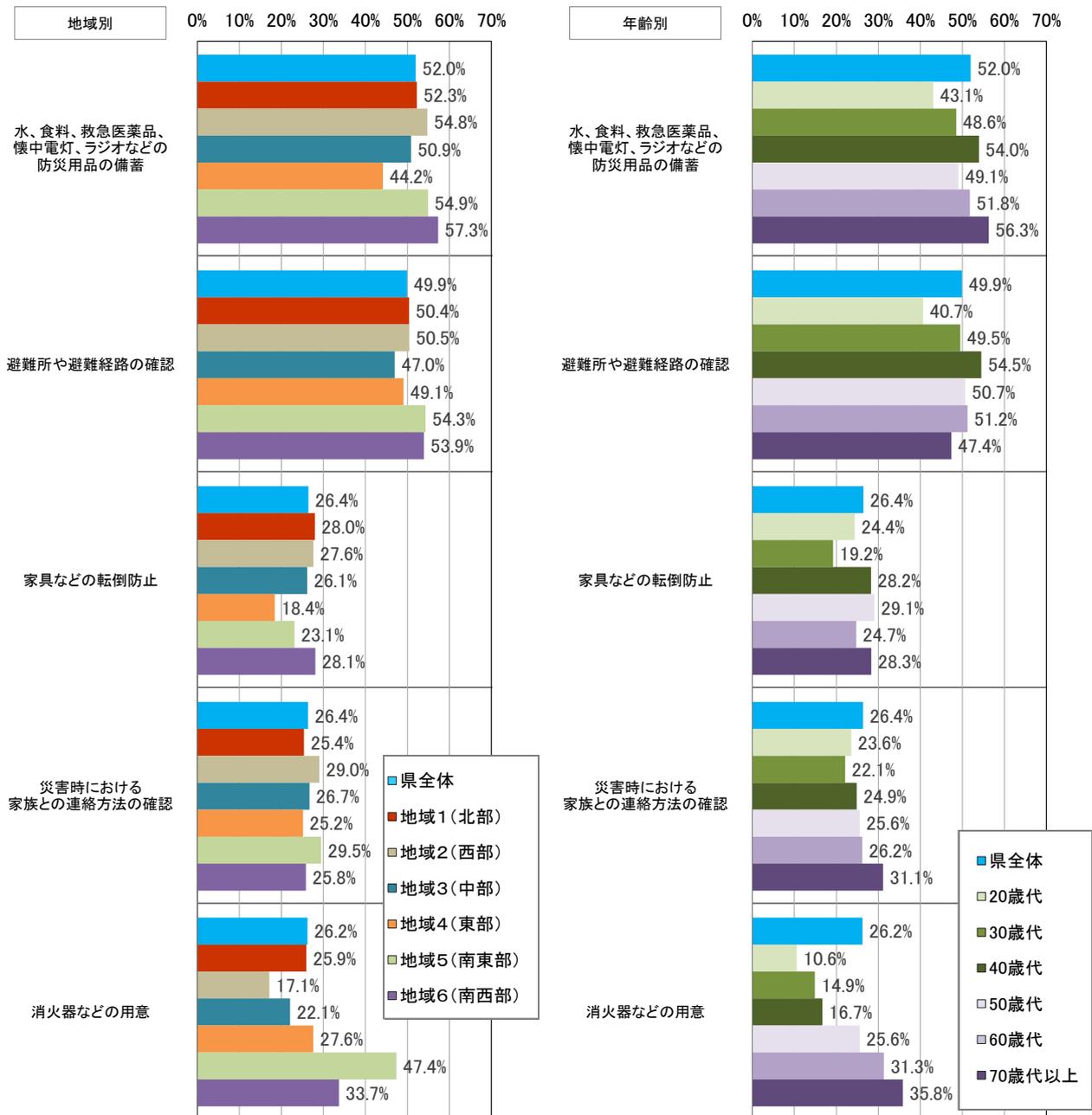
■「良い」と感じている人の割合を年齢別にみると、『70歳代以上』(51.4%)で最も多く、次いで『40歳代』(50.6%)となっており、最も少ないのは『30歳代』(47.6%)となっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

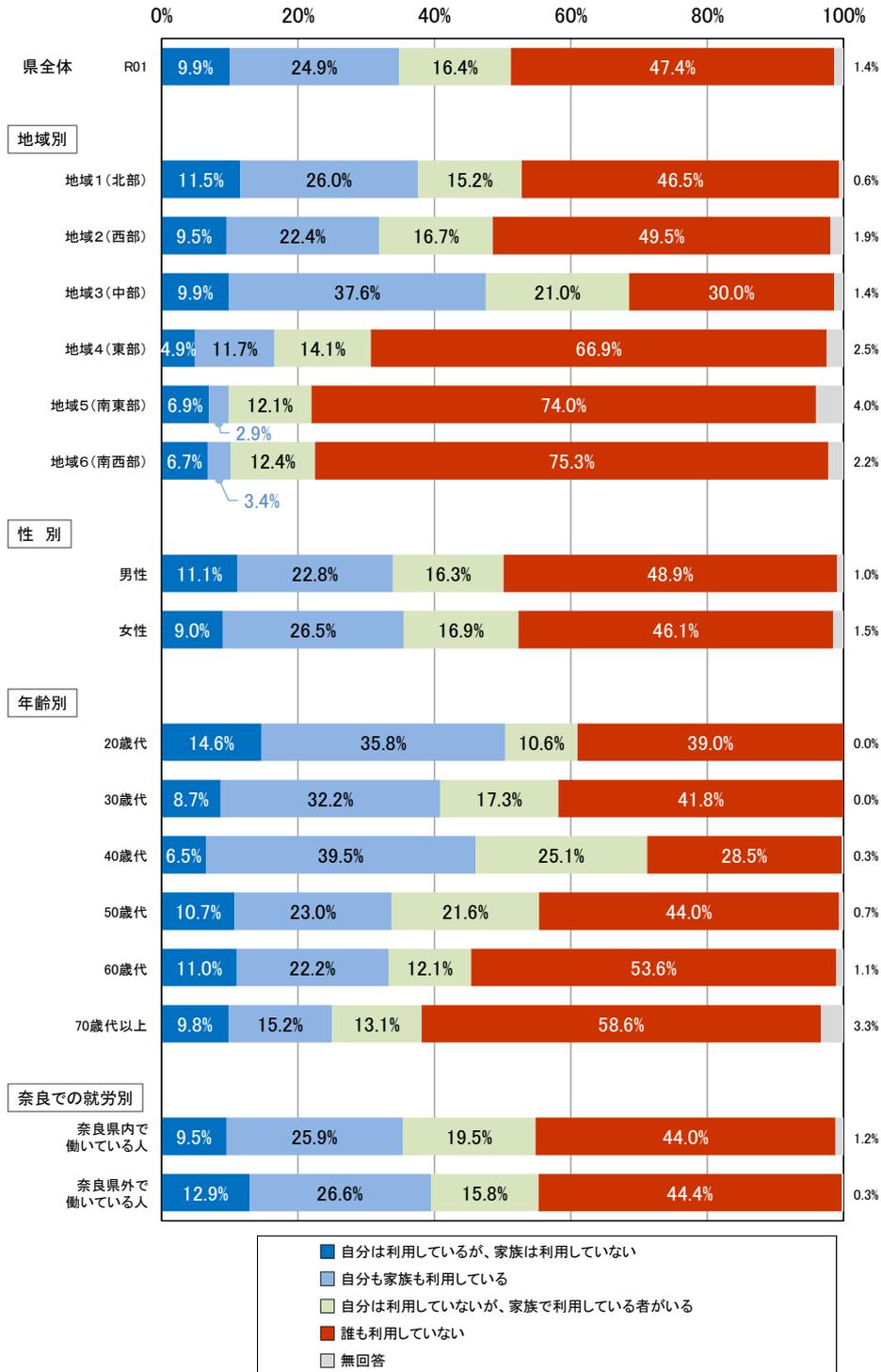
(2) 自然災害等に対して備えていること (問26)

- 自然災害に対して日頃から備えていることを尋ねたところ、「水、食料、救急医薬品、懐中電灯、ラジオなどの防災用品の備蓄」(52.0%)が最も多く、次いで「避難所や避難経路の確認」(49.9%)、「家具などの転倒防止」、「災害時における家族との連絡方法の確認」(ともに26.4%)、「消火器などの用意」(26.2%)となっています。
- 「水、食料、救急医薬品、懐中電灯、ラジオなどの防災用品の備蓄」と答えた人については、地域別では『地域6(南西部)』、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「避難所や避難経路の確認」と答えた人については、地域別では『地域5(南東部)』、年齢別では『40歳代』が最も多くなっています。
- 「家具などの転倒防止」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』と『地域6(南西部)』が同程度で最も多く、年齢別では『50歳代』が最も多くなっています。
- 「災害時における家族との連絡方法の確認」と答えた人については、地域別では『地域5(南東部)』、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「消火器などの用意」と答えた人については、地域別では『地域5(南東部)』、年齢別では年齢層が上がるほど多くなっています。



(3) 自転車の利用状況 (問 27)

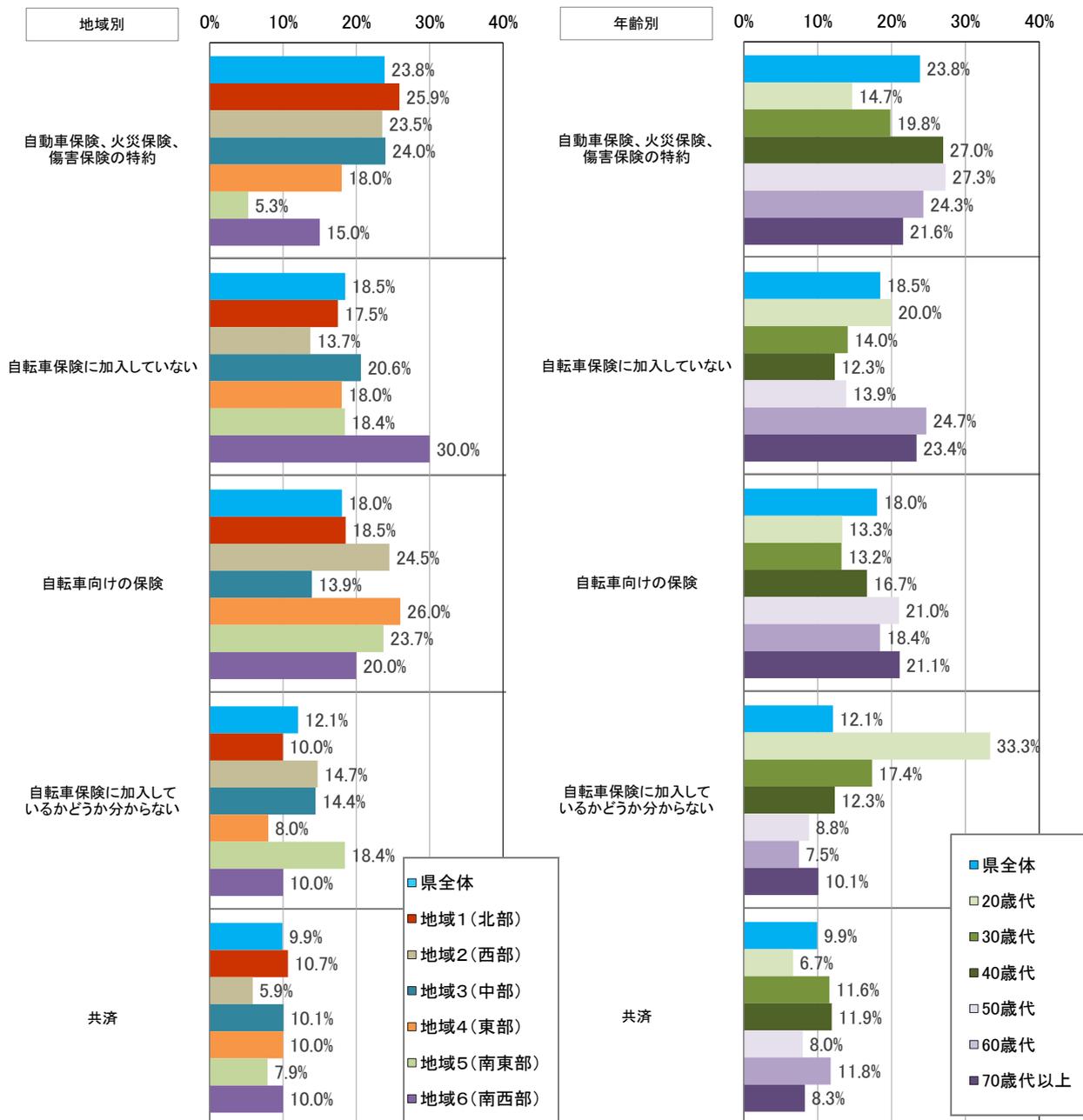
- 自転車を「利用している」(「自分は利用しているが、家族は利用していない」+「自分も家族も利用している」+「自分は利用していないが、家族で利用している者がいる」と答えた人の割合は 51.2%、「誰も利用していない」と答えた人の割合は 47.4%となっています。
- 「利用している」と答えた人の割合を地域別にみると、『地域3(中部)』(68.6%)が最も多く、次いで『地域1(北部)』(52.8%)、『地域2(西部)』(48.6%)となっています。一方、『地域4(東部)』(30.7%)では約3割、『地域5(南東部)』(22.0%)、『地域6(南西部)』(22.5%)では2割強と少なくなっています。
- 「利用している」と答えた人の割合を性別にみると、『女性』(52.3%)が『男性』(50.2%)より2.1ポイント多くなっています。
- 「利用している」と答えた人の割合を年齢別にみると、『40歳代』(71.2%)が最も多く、次いで『20歳代』(61.0%)となっています。一方、『60歳代』(45.4%)、『70歳代以上』(38.1%)では少なくなっています。
- 「利用している」と答えた人の割合を奈良での就労別にみると、『奈良県外で働いている人』(55.3%)が『奈良県内で働いている人』(54.8%)よりわずかに多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

(4) 損害賠償保険や自転車保険の加入状況 (問 29)

- 自転車事故を起こした場合に損害賠償が可能となる損害賠償保険や自転車保険の加入状況を尋ねたところ、「自動車保険、火災保険、傷害保険の特約」(23.8%)が最も多く、次いで「自転車保険に加入していない」(18.5%)、「自転車向けの保険」(18.0%)、「自転車保険に加入しているかどうか分からない」(12.1%)、「共済」(9.9%)となっています。
- 「自動車保険、火災保険、傷害保険の特約」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』が最も多く、年齢別では『50歳代』と『40歳代』が同程度で最も多くなっています。
- 「自転車保険に加入していない」と答えた人については、地域別では『地域6(南西部)』、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「自転車向けの保険」と答えた人については、地域別では『地域4(東部)』が最も多く、年齢別では『70歳代以上』と『50歳代』が同程度で最も多くなっています。
- 「自転車保険に加入しているかどうか分からない」と答えた人については、地域別では『地域5(南東部)』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「共済」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』が最も多く、年齢別では『40歳代』と『60歳代』が同程度で最も多くなっています。

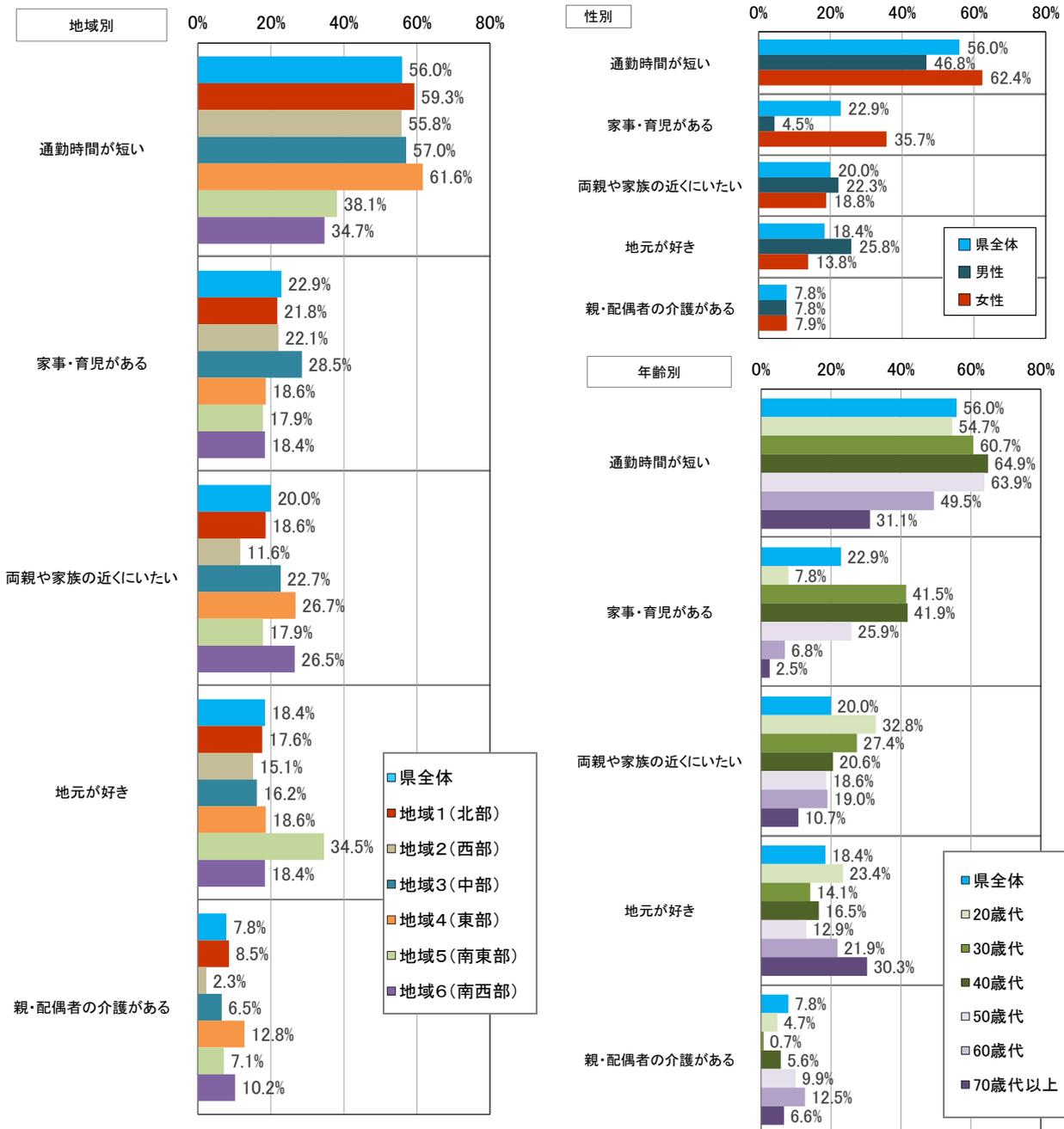


8. 雇用について

(1) 仕事をしている・希望している理由

① 県内で仕事をしている・希望している理由 (問 35-① 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 県内で仕事をしている・希望している理由を尋ねたところ、「通勤時間が短い」(56.0%)が最も多く、次いで「家事・育児がある」(22.9%)、「両親や家族の近くにいたい」(20.0%)、「地元が好き」(18.4%)、「親・配偶者の介護がある」(7.8%)となっています。
- 「通勤時間が短い」と答えた人については、地域別では『地域4(東部)』、性別では『女性』、年齢別では『40歳代』が最も多くなっています。
- 「家事・育児がある」と答えた人については、地域別では『地域3(中部)』、性別では『女性』が多く、年齢別では『40歳代』と『30歳代』が同程度で最も多くなっています。
- 「両親や家族の近くにいたい」と答えた人については、地域別では『地域4(東部)』と『地域6(南西部)』が同程度で最も多く、性別では『男性』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「地元が好き」と答えた人については、地域別では『地域5(南東部)』、性別では『男性』、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「親・配偶者の介護がある」と答えた人については、地域別では『地域4(東部)』が最も多く、性別では『男性』と『女性』が同程度、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。



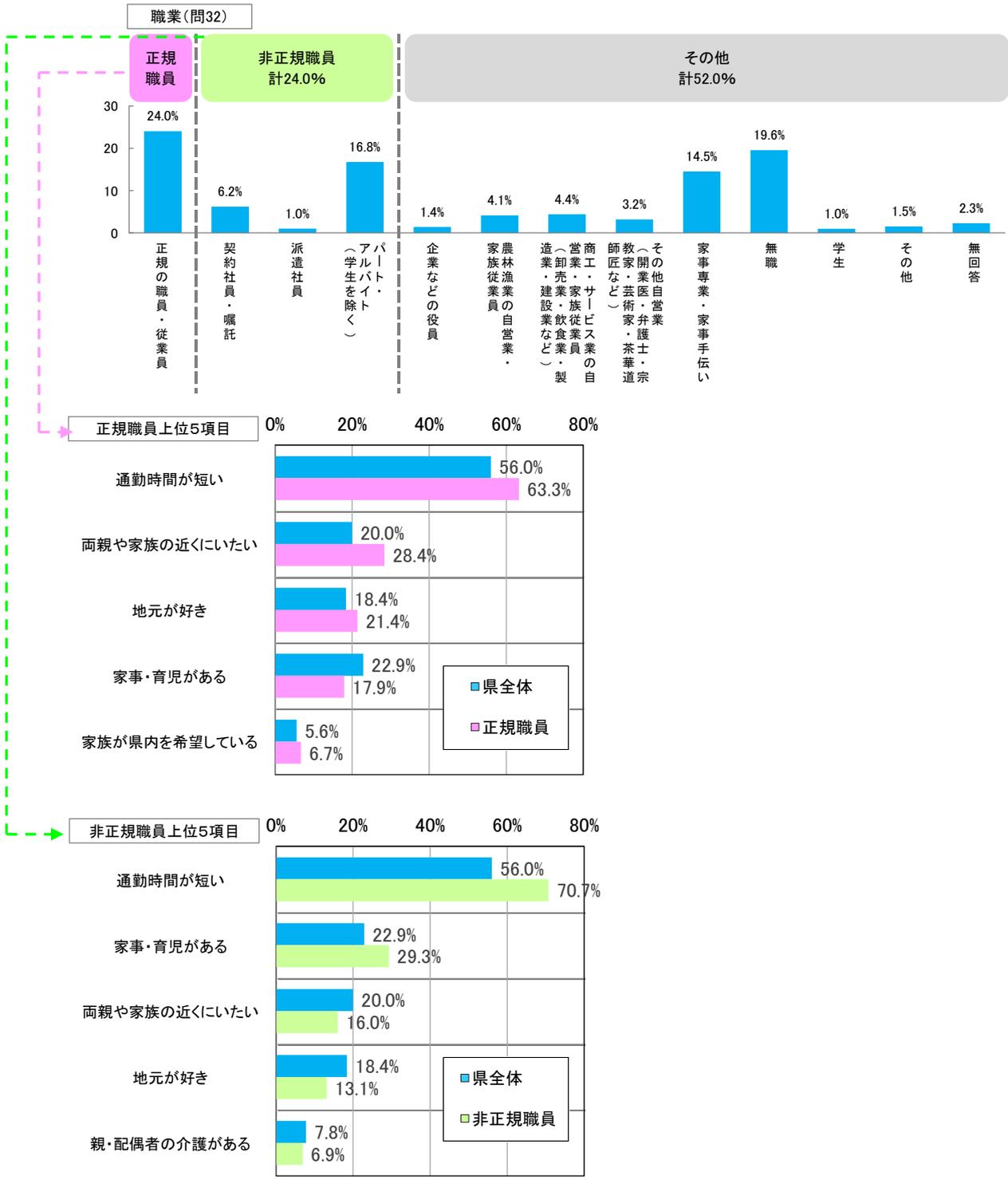
①県内で仕事をしている・希望している理由【雇用形態別】

(問 35-① 3つ以内で複数回答 正規職員、非正規職員別それぞれ上位5項目を掲載)

■雇用形態別にみると、正規職員では「通勤時間が短い」(63.3%)が最も多く、次いで「両親や家族の近くにいたい」(28.4%)、「地元が好き」(21.4%)、「家事・育児がある」(17.9%)、「家族が県内を希望している」(6.7%)となっています。

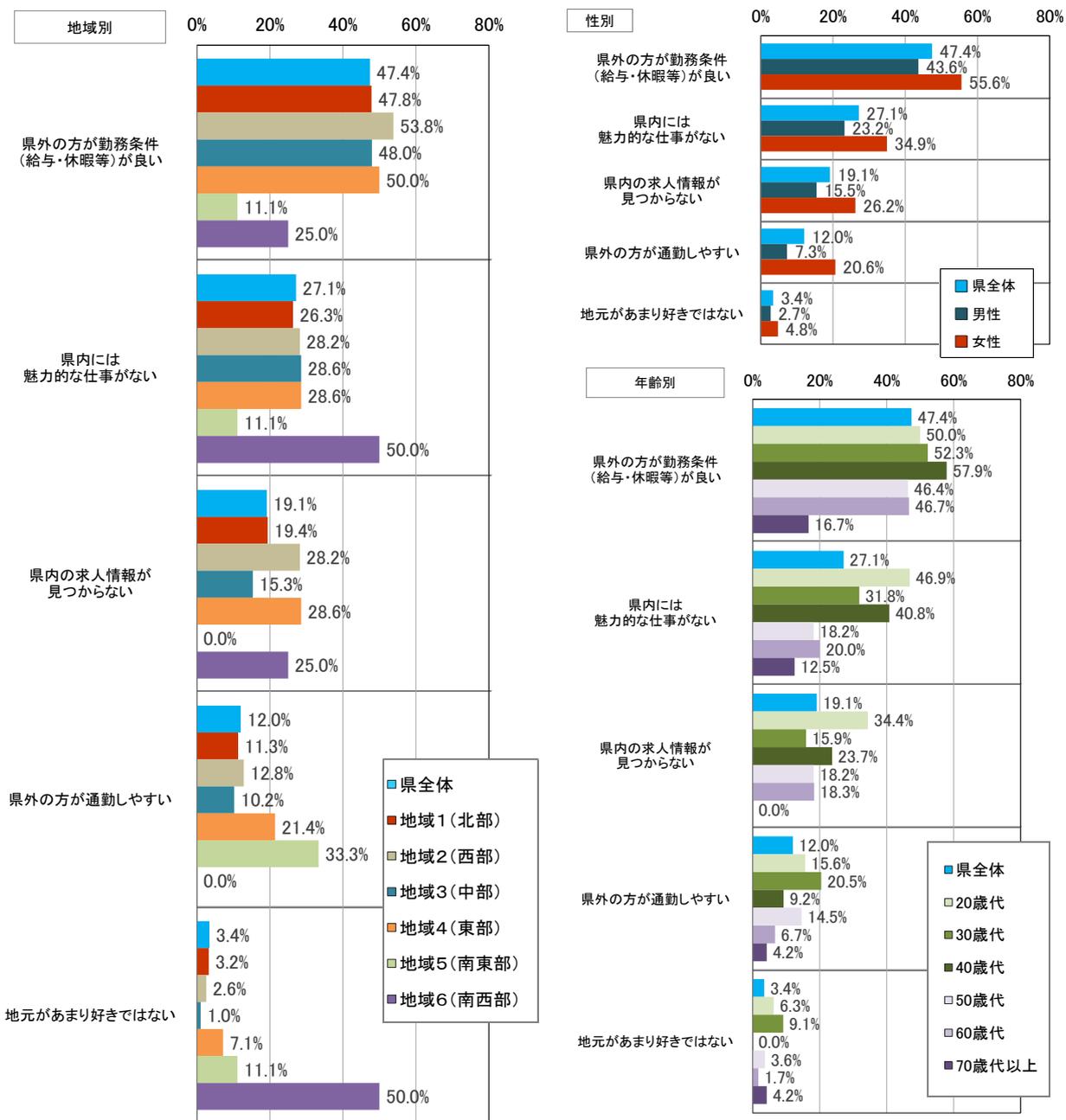
〔*「正規職員」は問32で「1. 正規の職員・従業員」と回答した人、「非正規職員」は「2. 契約社員・嘱託」「3. 派遣社員」「4. パート・アルバイト」と回答した人とする。〕

■非正規職員では「通勤時間が短い」(70.7%)が最も多く、次いで「家事・育児がある」(29.3%)、「両親や家族の近くにいたい」(16.0%)、「地元が好き」(13.1%)、「親・配偶者の介護がある」(6.9%)となっています。



②県外で仕事をしている・希望している理由（問35-② 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

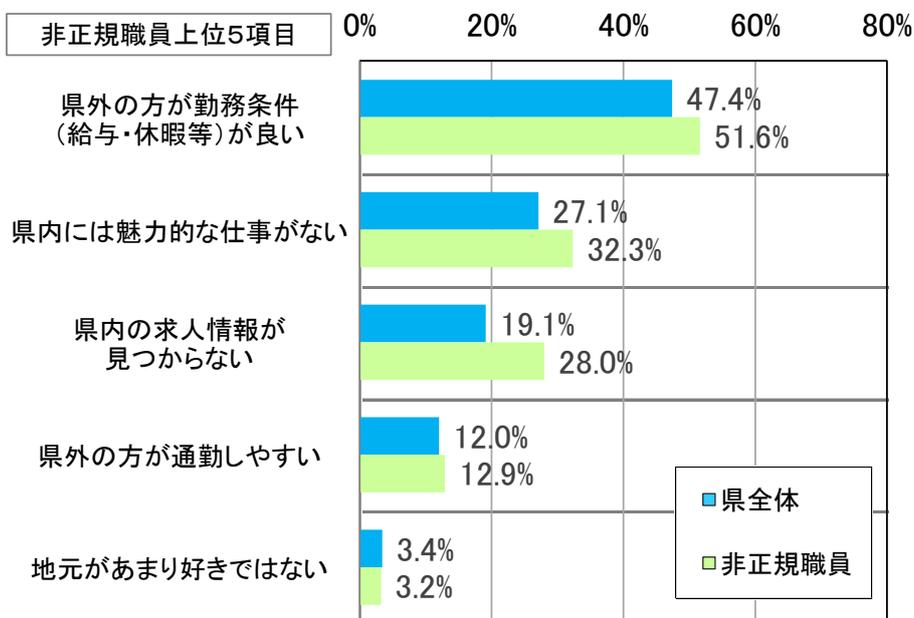
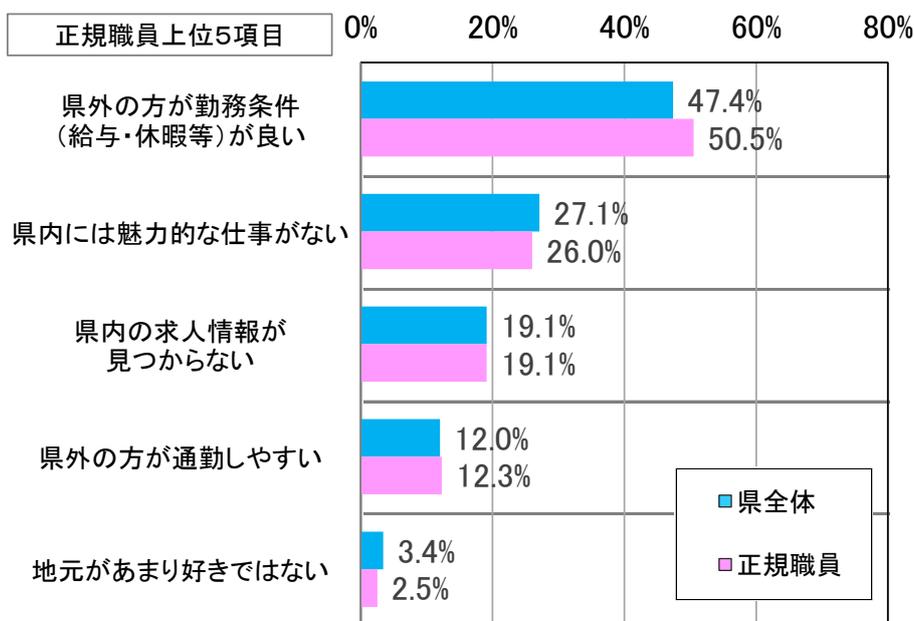
- 県外で仕事をしている・希望している理由を尋ねたところ、「県外の方が勤務条件（給与・休暇等）が良い」（47.4%）が最も多く、次いで「県内には魅力的な仕事がない」（27.1%）、「県内の求人情報が見つからない」（19.1%）、「県外の方が通勤しやすい」（12.0%）、「地元があまり好きではない」（3.4%）となっています。
- 「県外の方が勤務条件（給与・休暇等）が良い」と答えた人については、地域別では『地域2（西部）』、性別では『女性』、年齢別では『40歳代』が最も多くなっています。
- 「県内には魅力的な仕事がない」と答えた人については、地域別では『地域6（南西部）』、性別では『女性』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「県内の求人情報が見つからない」と答えた人については、地域別では『地域4（東部）』が最も多く、性別では『女性』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「県外の方が通勤しやすい」と答えた人については、地域別では『地域5（南東部）』、性別では『女性』、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「地元があまり好きではない」と答えた人については、地域別では『地域6（南西部）』が最も多く、性別では『女性』、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。



②県外で仕事をしている・希望している理由【雇用形態別】

(問 35-② 3つ以内で複数回答 正規職員、非正規職員別それぞれ上位5項目を掲載)

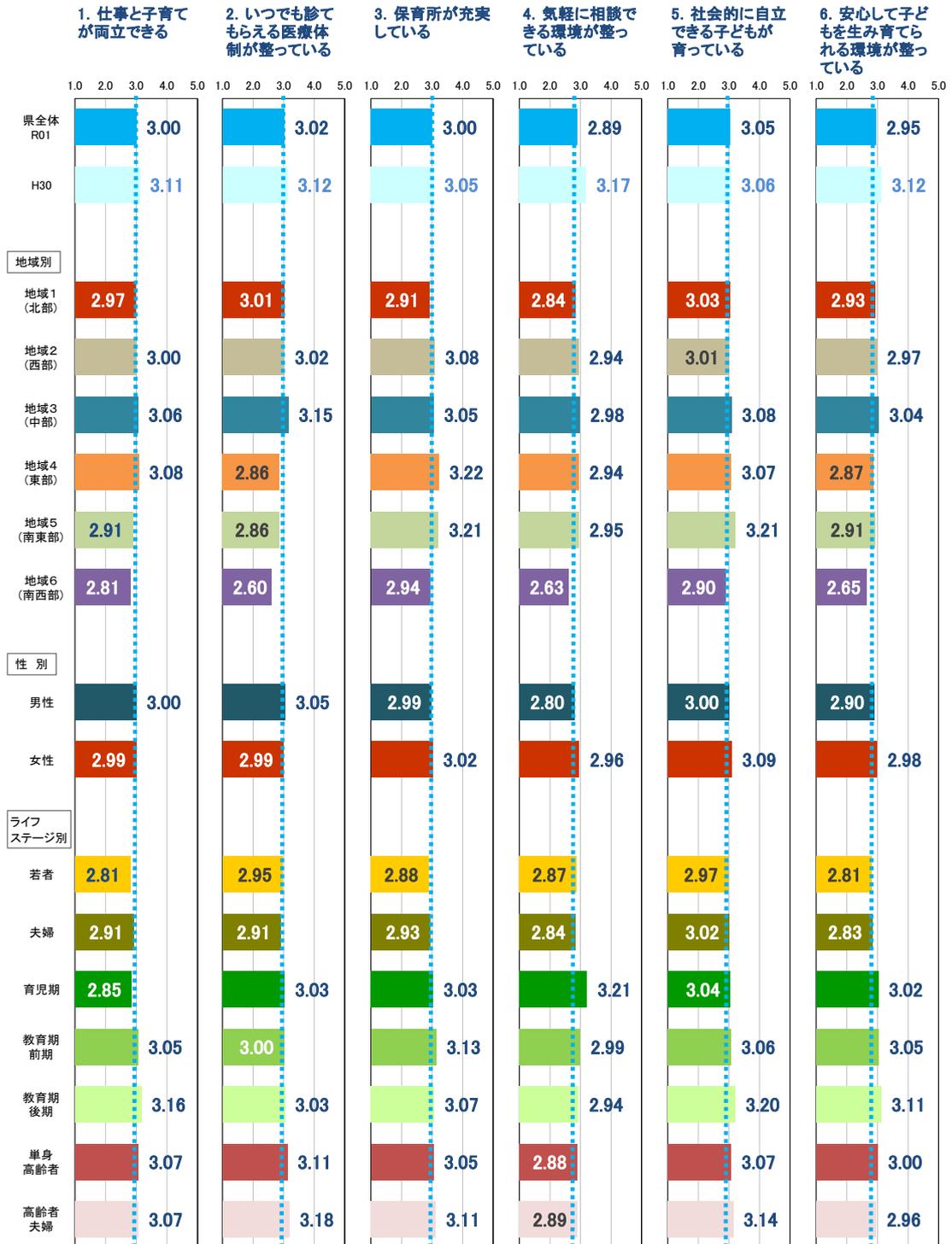
- 雇用形態別にみると、正規職員では「県外の方が勤務条件(給与・休暇等)が良い」(50.5%)が最も多く、次いで「県内には魅力的な仕事がない」(26.0%)、「県内の求人情報が見つからない」(19.1%)、「県外の方が通勤しやすい」(12.3%)、「地元があまり好きではない」(2.5%)となっています。
- 非正規職員では「県外の方が勤務条件(給与・休暇等)が良い」(51.6%)が最も多く、次いで「県内には魅力的な仕事がない」(32.3%)、「県内の求人情報が見つからない」(28.0%)、「県外の方が通勤しやすい」(12.9%)、「地元があまり好きではない」(3.2%)となっています。
- 正規職員、非正規職員ともに上位5項目は同じ理由となっています。



9. 少子化対策について

(1) 子育てに関する満足度 (問 39 5段階ポイント評価)

- 子育てに関する6項目の満足度を5点(高い)～1点(低い)の5段階で評価しました。
- 満足度は、「5. 社会的に自立できる子どもが育っている」が3.05ポイントで6項目の中で一番高くなっています。
- 平成30年度と比較すると、すべての項目で満足度が低下しており、特に「4. 気軽に相談できる環境が整っている」は0.28ポイントと最も低下しています。
- 地域別にみると、『地域3(中部)』では6項目すべて、『地域2(西部)』は5項目で県全体の満足度より高くなっています。一方、『地域1(北部)』と『地域6(南西部)』は6項目すべてで県全体の満足度より低くなっています。
- 性別にみると、『女性』は4項目で県全体の満足度より高くなっています。
- ライフステージ別にみると、『教育期後期』は6項目すべて、『教育期前期』は5項目で県全体の満足度より高くなっています。一方、『若者』と『夫婦』はすべての項目で県全体の満足度より低くなっています。

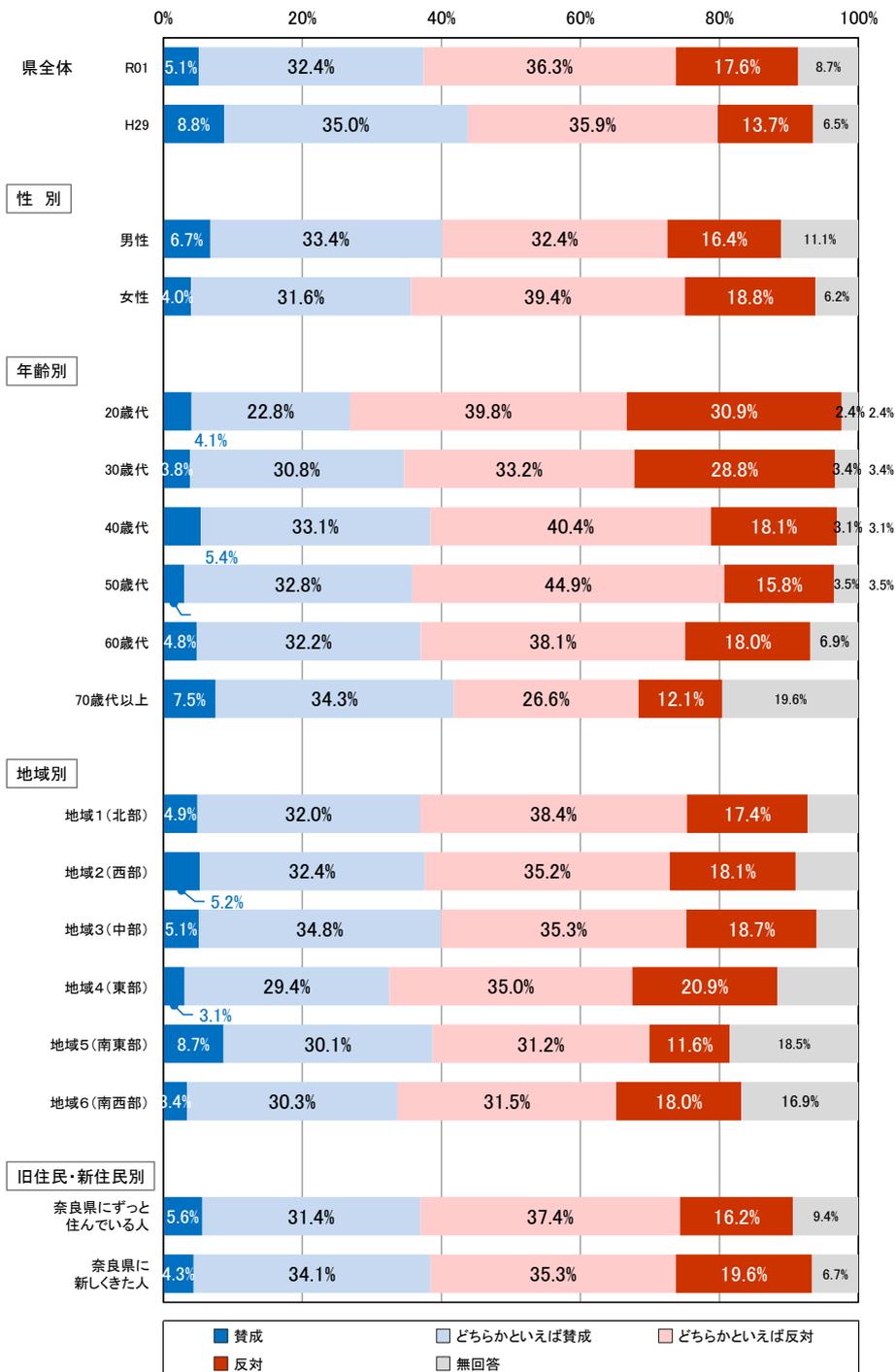


※棒グラフの外側に示した数値は、県全体よりも高いもの。.....は、県全体の値。

10. 女性の活躍推進について

(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えの賛否 (問40)

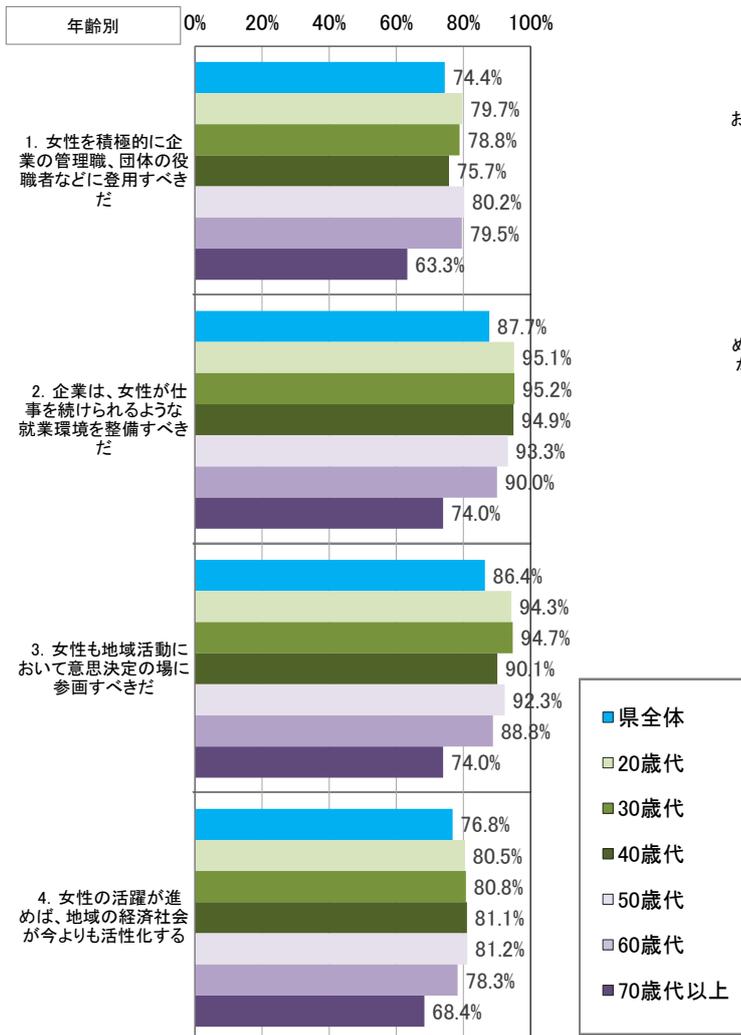
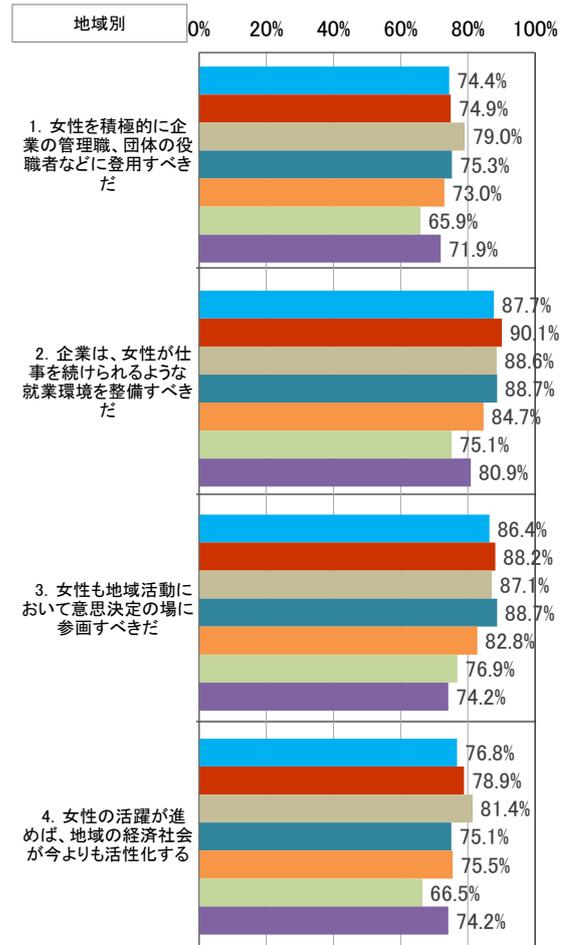
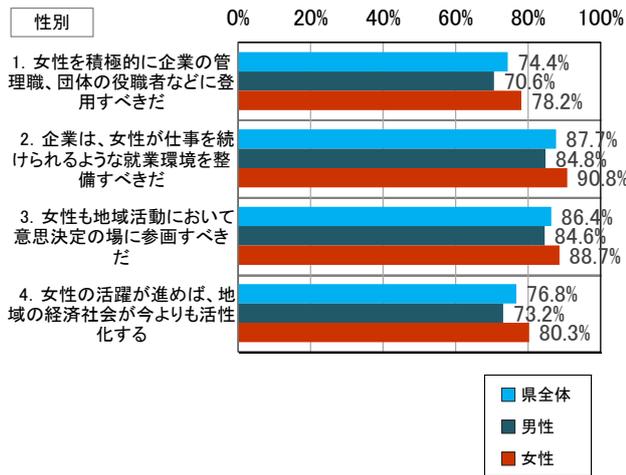
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに「反対」(「反対」+「どちらかといえば反対」と答えた人の割合は 53.9%で、「賛成」(「賛成」+「どちらかといえば賛成」と答えた人(37.4%)より16.5ポイント多くなっています。平成29年度調査と比べると、「反対」は4.2ポイント増加、「賛成」は6.4ポイント減少となっています。
- 「反対」と答えた人の割合を性別にみると、『女性』(58.2%)が『男性』(48.8%)より9.4ポイント多くなっています。
- 「反対」と答えた人の割合を年齢別にみると、『20歳代』(70.7%)が最も多く、次いで『30歳代』(62.0%)となっています。一方、『70歳代以上』(38.6%)では4割未満と少なくなっています。
- 「反対」と答えた人の割合を地域別にみると、『地域1(北部)』と『地域4(東部)』ともに55.8%が最も多く、次いで『地域3(中部)』(54.1%)、『地域2(西部)』(53.3%)となっています。一方、『地域5(南東部)』(42.8%)、『地域6(南西部)』(49.4%)では半数以下と少なくなっています。
- 「反対」と答えた人の割合を旧住民・新住民別にみると、『奈良県に新しくきた人』(54.9%)が『奈良県にずっと住んでいる人』(53.6%)よりわずかに多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

(2) 女性の活躍への考え方 (問 41)

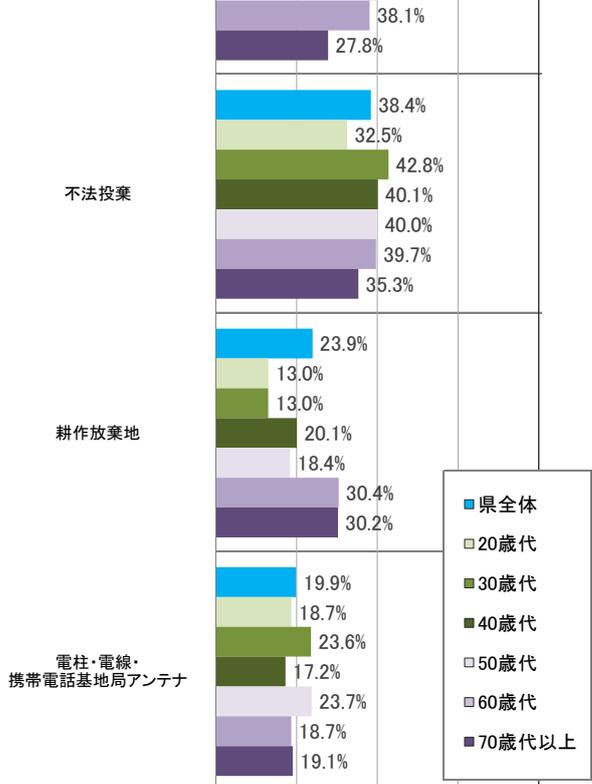
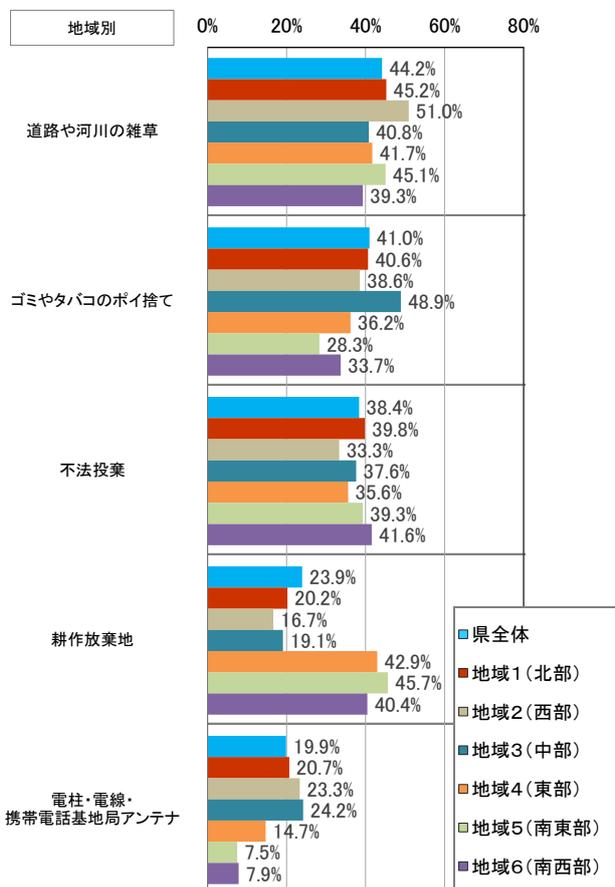
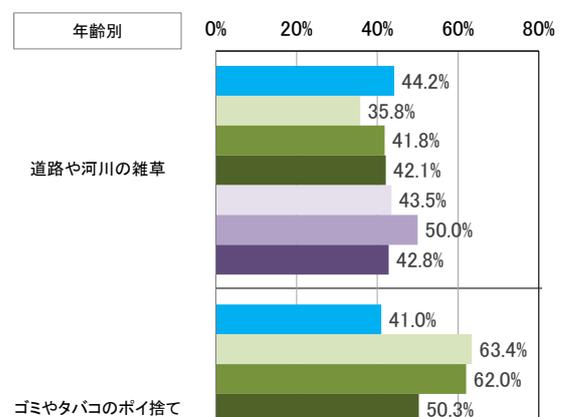
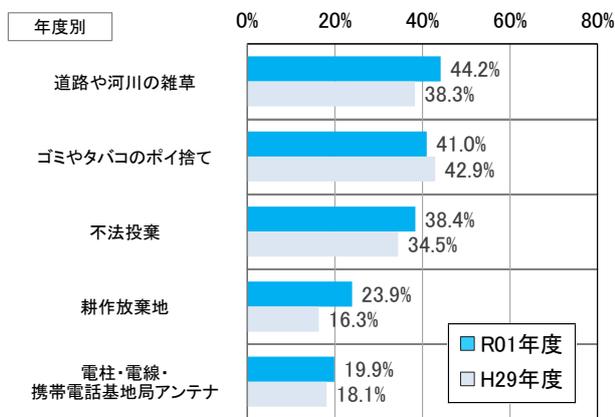
- 女性の活躍への考え方の4項目について、「思う」(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)に再集計しました。
- 4項目の中で、「2. 企業は、女性が仕事を続けられるような就業環境を整備すべきだ」(87.7%)が一番高くなっています。
- 性別にみると、『女性』は4項目すべてで県全体より高くなっています。
- 年齢別にみると、『70 歳代以上』は4項目すべてで県全体より低くなっていますが、その他の年代はすべての項目で県全体より高くなっています。
- 地域別にみると、『地域1(北部)』、『地域2(西部)』は4項目すべて、『地域3(中部)』は3項目で県全体より高くなっています。一方、『地域4(東部)』、『地域5(南東部)』、『地域6(南西部)』はすべての項目で県全体より低くなっています。



11. 景観・環境の保全について

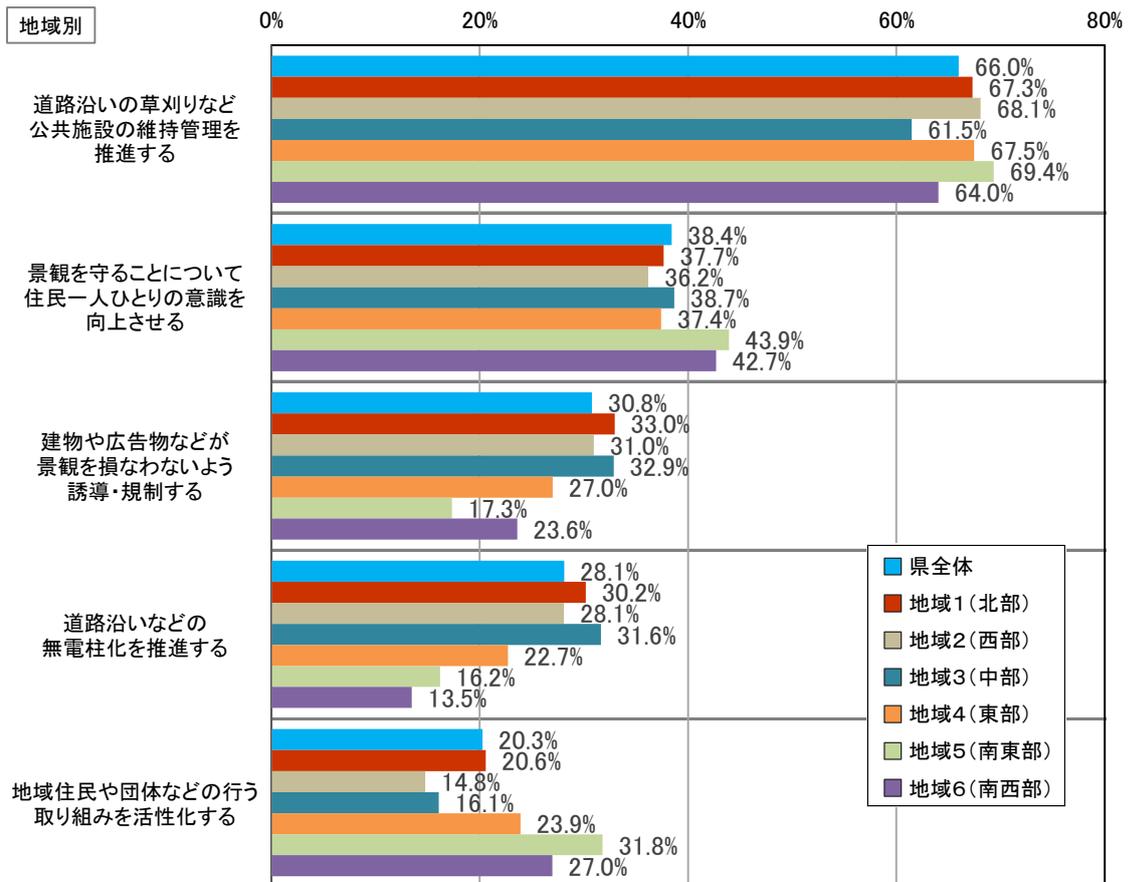
(1) 地域で景観を損ねているもの（問42 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- 地域で景観を損ねていると感じるものを尋ねたところ、「道路や河川の雑草」(44.2%)が最も多く、次いで「ゴミやタバコのポイ捨て」(41.0%)、「不法投棄」(38.4%)、「耕作放棄地」(23.9%)、「電柱・電線・携帯電話基地局アンテナ」(19.9%)となっています。
- 「道路や河川の雑草」と答えた人については、平成29年度と比べると5.9ポイント増加しています。地域別では『地域2(西部)』、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「ゴミやタバコのポイ捨て」と答えた人については、平成29年度と比べると1.9ポイント減少しています。地域別では『地域3(中部)』が最も多く、年齢別では年齢層が下がるほど多くなっています。
- 「不法投棄」と答えた人については、平成29年度と比べると3.9ポイント増加しています。地域別では『地域6(南西部)』、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「耕作放棄地」と答えた人については、平成29年度と比べると7.6ポイント増加しています。地域別では『地域5(南東部)』が最も多く、『地域4(東部)』、『地域6(南西部)』の3地域が4割以上と多くなっています。年齢別では『60歳代』と『70歳代以上』が同程度で最も多くなっています。
- 「電柱・電線・携帯電話基地局アンテナ」と答えた人については、平成29年度と比べると1.8ポイント増加しています。地域別では『地域3(中部)』。年齢別では『50歳代』と『30歳代』が同程度で最も多くなっています。



(2) 景観保全に必要な施策 (問 43 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

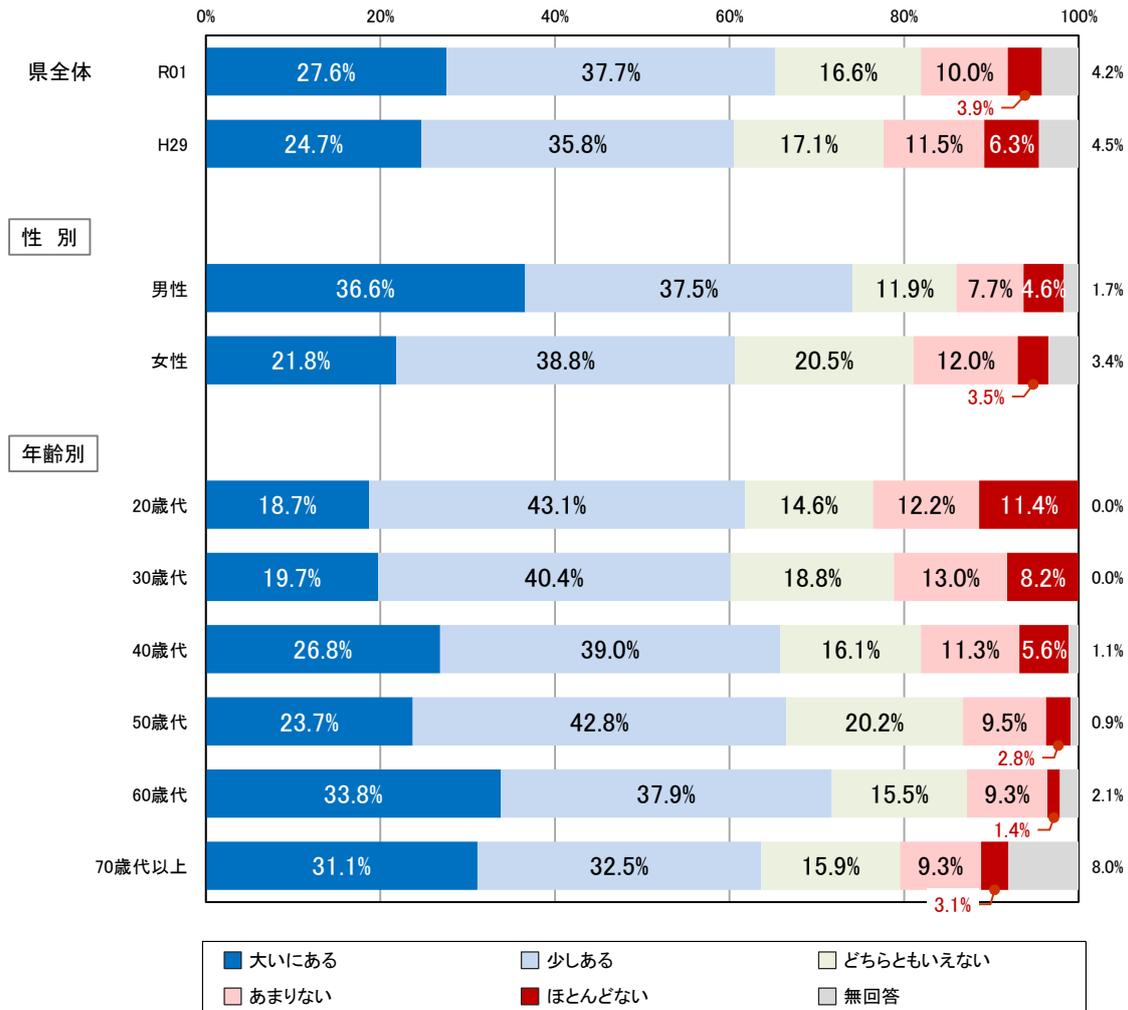
- 景観保全に必要な施策を尋ねたところ、「道路沿いの草刈りなど公共施設の維持管理を推進する」(66.0%)が最も多く、次いで「景観を守ることにについて住民一人ひとりの意識を向上させる」(38.4%)、「建物や広告物などが景観を損なわないよう誘導・規制する」(30.8%)、「道路沿いなどの無電柱化を推進する」(28.1%)、「地域住民や団体などの行う取り組みを活性化させる」(20.3%)となっています。
- 「道路沿いの草刈りなど公共施設の維持管理を推進する」、「景観を守ることにについて住民一人ひとりの意識を向上させる」、「地域住民や団体などの行う取り組みを活性化させる」と答えた人については、地域別では『地域5(南東部)』が最も多くなっています。
- 「建物や広告物などが景観を損なわないよう誘導・規制する」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』と『地域3(中部)』が同程度で最も多くなっています。
- 「道路沿いなどの無電柱化を推進する」と答えた人については、地域別では『地域3(中部)』が最も多くなっています。



12. エネルギー政策の推進について

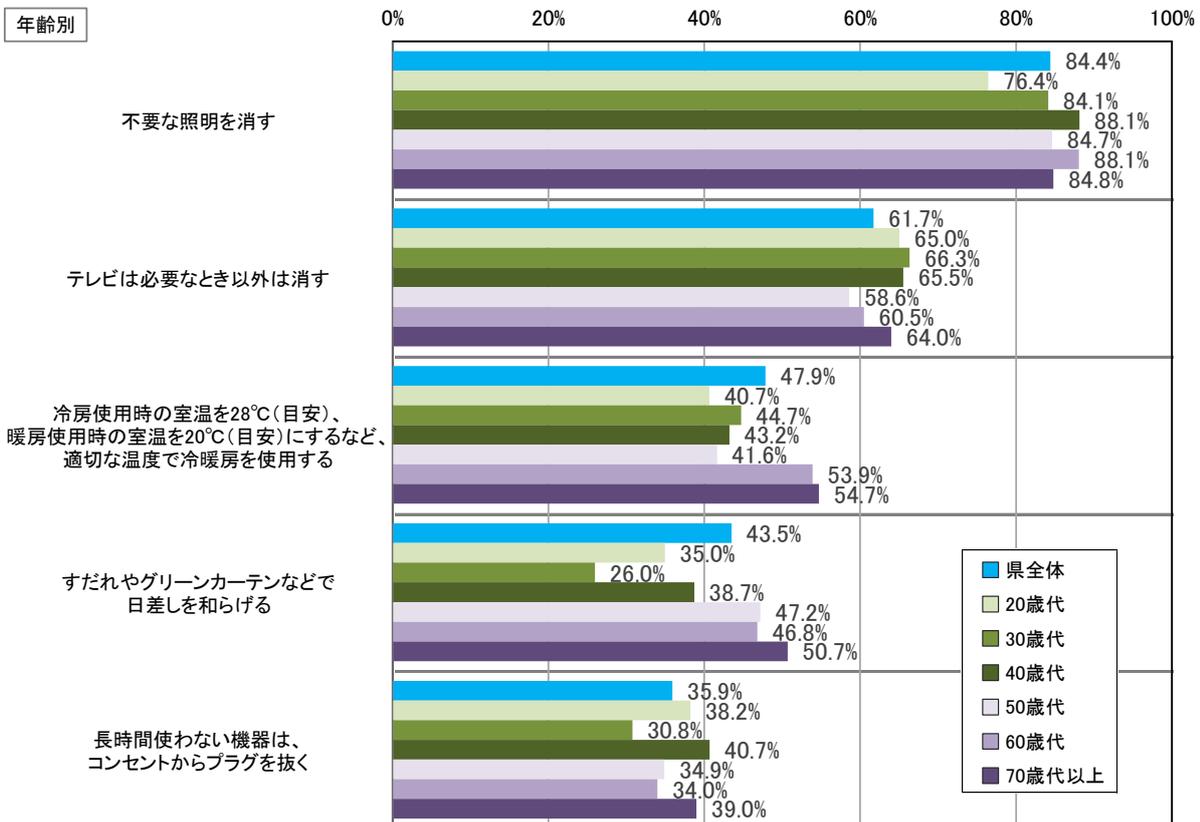
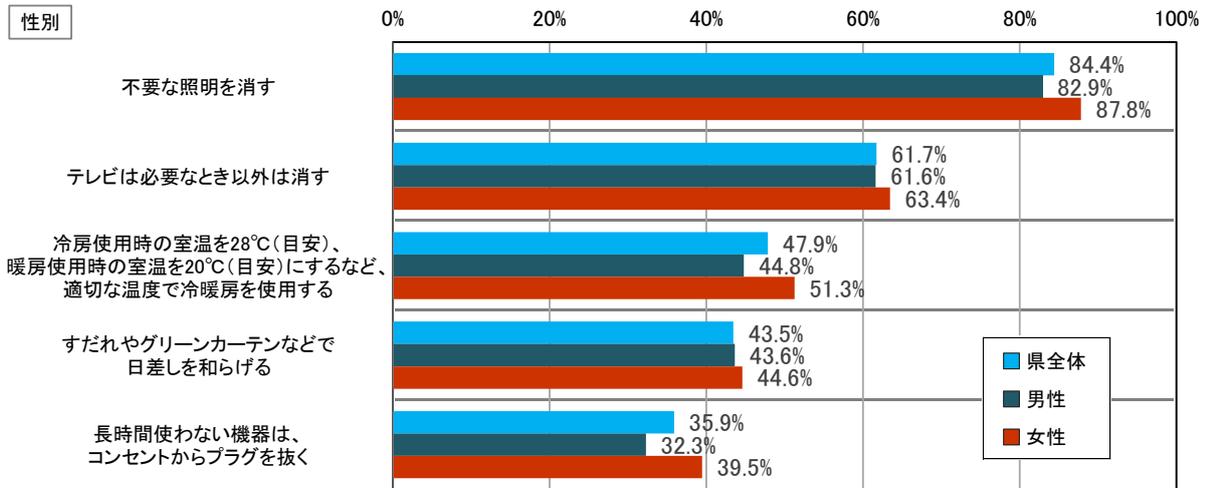
(1) 「再生可能エネルギー等の利活用」への関心 (問 44)

- 再生可能エネルギーに「関心あり」(「大いにある」+「少しある」)と答えた人の割合は 65.3%で平成 29 年度(60.5%)より 4.8 ポイント増加しています。「関心なし」(「ほとんどない」+「あまりない」)と答えた人の割合は 13.9%で、平成 29 年度(17.8%)より 3.9 ポイント減少しています。
- 「関心あり」と答えた人の割合を性別にみると、『男性』(74.1%)の方が『女性』(60.6%)より 13.5 ポイント多くなっています。
- 「関心あり」と答えた人の割合を年齢別にみると、『60 歳代』(71.7%)が最も多く、次いで『50 歳代』(66.5%)、『40 歳代』(65.8%)となっています。一方、「関心なし」と答えた人の割合は『20 歳代』(23.6%)と『30 歳代』(21.2%)で 2割以上となっています。



(2) 省エネ・節電のための日常的な取組状況 (問 46 県全体についての上位5項目を掲載)

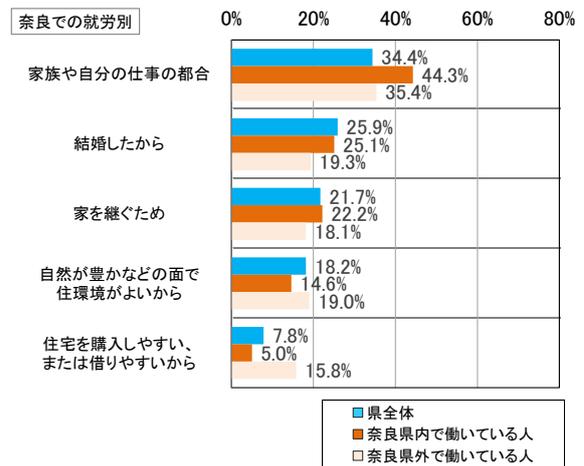
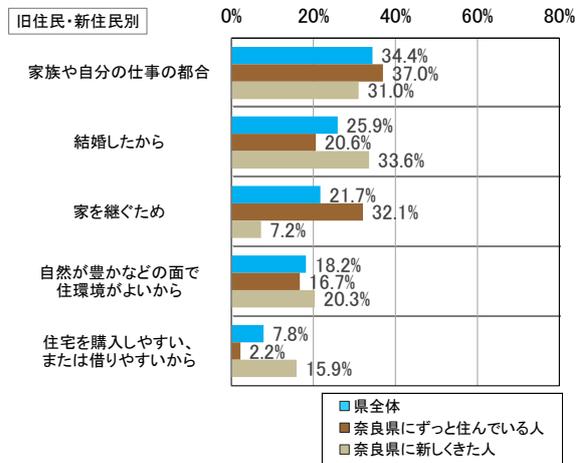
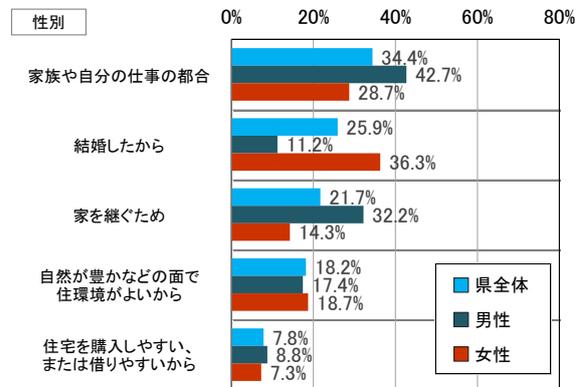
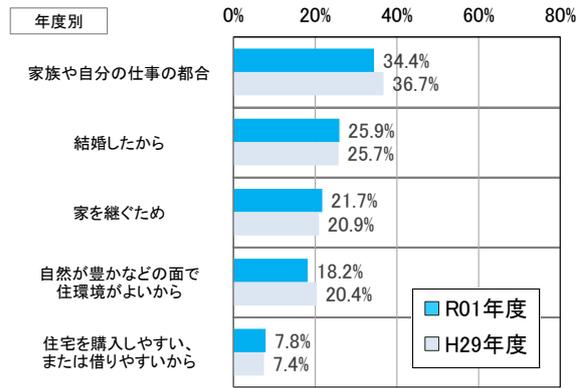
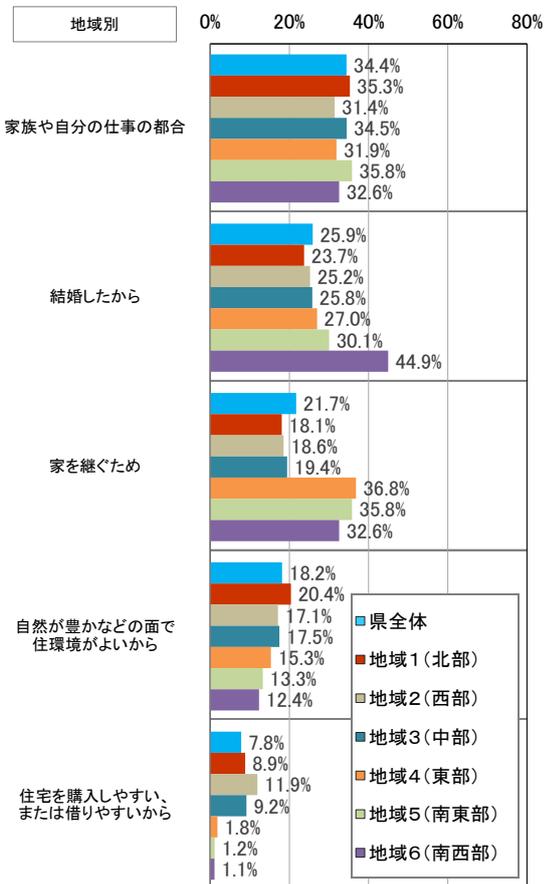
- 省エネ・節電のための日常的な取組状況を尋ねたところ、「不要な照明を消す」(84.4%)が最も多く、次いで「テレビは必要なとき以外は消す」(61.7%)、「適切な温度で冷暖房を使用する」(47.9%)、「すだれやグリーンカーテンなどで日差しを和らげる」(43.5%)、「長時間使わない機器は、コンセントからプラグを抜く」(35.9%)となっています。
- 性別でみると、すべての項目で『女性』が『男性』より多くなっています。
- 「不要な照明を消す」と答えた人については、年齢別では『40歳代』と『60歳代』が同程度で最も多くなっており、『20歳代』で最も少なくなっています。
- 「テレビは必要なとき以外は消す」と答えた人については、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「適切な温度で冷暖房を使用する」と答えた人については、年齢別では『70歳代以上』で最も多く、次いで『60歳代』となっています。一方、『20歳代』～『50歳代』では県全体より少なくなっています。
- 「すだれやグリーンカーテンなどで日差しを和らげる」と答えた人については、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「長時間使わない機器は、コンセントからプラグを抜く」と答えた人については、年齢別では『40歳代』が最も多くなっています。



13. 回答者に関すること

(1) 奈良での居住理由 (問 53 2つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 奈良での居住理由について尋ねたところ、「家族や自分の仕事の都合」(34.4%)が最も多く、次いで「結婚したから」(25.9%)、「家を継ぐため」(21.7%)、「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」(18.2%)、「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」(7.8%)となっています。
- 平成30年度と比較すると、「家族や自分の仕事の都合」(2.3ポイント減)、「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」(2.2ポイント減)で減少しています。
- 「家族や自分の仕事の都合」と答えた人は、地域別では『地域5(南東部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚したから」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家を継ぐため」と答えた人は、地域別では『地域4(東部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」と答えた人は、地域別では『地域1(北部)』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



令和元年度
県民アンケート調査
報告書
<概要版>

令和元年 12 月

奈良県総務部知事公室統計分析課
〒630-8501 奈良市登大路町 30 番地
電話 0742-27-8439
